

交通／専門科目

ナンバリング		科目名		サブタイトル	担当教員	配当年学期	単位数
112BT01		交通概論 A		交通とは何か、基礎と歴史を学ぶ	遠藤 俊太郎	1 年次前期	2
科目区分	専 門	キーワード		交通と経済・社会、交通と人間、交通と技術・情報、交通と環境			
ディプロマポリシーとの対応			2. 交通産業および関連分野での基礎能力（技術・理論）を有し、関連分野で活躍可能な能力				
カリキュラムポリシーとの対応			1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける 2. 交通産業および関連分野で活躍するための基礎能力（技術・理論）を身につける				
事前に受講するとよい科目			特になし				
オフィスアワー			授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。				
教員への連絡方法			教員の短大メールアドレス				
講義の目的	本講義では、これから本格的に交通を学ぶうえで必要となる基礎的な知識を習得する。具体的には、「交通とは何か」という大きなテーマの下、交通の歴史や、現代の経済・社会、日常生活にどのように交通に関わり、貢献しているか、交通が世の中でどのような役割を果たしているかといった視点からその概要を学ぶ。交通に関する現状・課題を認識し、自らその解決策を考えるといった、交通を担う当事者としての意識を持つことも本講義の目的である。						
到達目標	交通を専門的に学ぶうえで基礎的な知識を身につける。						
講義内容	私たちの生活にとって身近で、欠くことのできない「交通」について概括的に把握・理解するため、交通とは何か、交通にはどのような歴史があり、現代の社会・経済・日常生活の中でどのような役割を果たしているのか、具体的な事例を挙げて紹介・説明する。この講義では、交通・運輸について専門的に学ぶための基礎的な知識を学んでいく。						
講義スケジュール		タイトル		内容			
	第1講	オリエンテーション		交通とは何か、交通を学ぶうえで必要なこと			
	第2講	交通サービス		交通とサービス、交通輸送サービスの特徴			
	第3講	交通のデータ		交通を表す単位（人キロ、トンキロ他）、交通の基礎データ			
	第4講	交通市場の理論と価格		一般的な市場と交通市場、運賃・料金の決まり方			
	第5講	人間の生活と交通		衣食住と交通、交通の起源と前近代の交通			
	第6講	交通の近代化		近代以降の交通体系の形成と交通機関			
	第7講	交通と地域・文化		交通の影響を受ける地域構造と社会・文化			
	第8講	交通と医療・福祉		交通と医療・福祉の関係、交通の役割			
	第9講	交通と技術		交通を支える技術の進化			
	第10講	交通と通信		交通と通信の関係、情報技術と交通			
	第11講	交通分野の担い手と働き方		交通産業の働き方、労働法、ワークライフバランス			
	第12講	交通の安全（1）		安全はなぜ重要か、安全を守るための仕組み			
	第13講	交通の安全（2）		道路交通の安全性、交通戦争・交通安全			
	第14講	交通心理学と市場		交通をめぐる心理学、交通関連のマーケット			
第15講	交通と環境		交通がもたらす環境問題、環境政策と交通				
指導方法		スライドを活用しながら講義を進める。講義内で小テストを実施するほか、意見発表等の機会を設け、受講者によるディスカッション等を通じて理解を深める。					
事前学習		授業前の事前学習として、関連する情報を書籍やインターネット等で調べ、課題をもって授業に臨むことが必要である。1 時間 30 分程度の学習時間が目安である。					
事後学習		授業後の事後学習として、授業時に学習した内容に関連する事例について調べ、自分で考察をまとめることにより、授業で学んだ知識が定着し、理解を深めることができる。1 時間 30 分程度の学習時間が目安である。					
成績評価方法		平常点（小テスト・発表・授業内課題等）50%、本試験（筆記試験）50%					
課題（試験・レポート）に対するフィードバックの方法			必要に応じ、個別のコメント返信や講義内での紹介・コメント等によりフィードバックを行う。				
テキスト		テキストは使用しない。各講義の内容にあわせて作成・共有する。					
参考文献		講義内で紹介する。					
実務家教員による授業	○	教 員 経 歴	総合経済団体にてまちづくりや産業政策等に関する実務を経験したのち、ドイツにて交通政策の研究に従事。現職は公共交通関係のシンクタンク研究員。				
特記事項		実務経験を活かし、理論や建前だけでなく各地の事例を含めて説明します。積極的な参加を期待します。					

ナンバリング		科目名		サブタイトル		担当教員	配当年学期	単位数
122BT02		交通概論 B		交通の基礎知識を学び、交通を考える		遠藤 俊太郎	1 年次後期	2
科目区分	専 門	キーワード		交通政策、交通計画、交通事業、地域経済				
ディプロマポリシーとの対応			2. 交通産業および関連分野での基礎能力（技術・理論）を有し、関連分野で活躍可能な能力					
カリキュラムポリシーとの対応			1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける 2. 交通産業および関連分野で活躍するための基礎能力（技術・理論）を身につける					
事前に受講するとよい科目			交通概論 A					
オフィスアワー			授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。					
教員への連絡方法			教員の短大メールアドレス					
講義の目的	本講義では、交通を取り巻く現状とその背景を理解するとともに、国・地方公共団体における交通政策、鉄道・バス・航空等の交通事業経営の両面から、具体的にどのように「交通」が計画され、輸送サービスが提供されてきたのか、また、現在直面している課題、今後直面するであろう事態にどういった形で対応していくのか、具体的な事例をもとに理解を深める。							
到達目標	大都市圏と地方圏それぞれにおける地域特性、交通および交通事業の状況、政策の方向性や事業経営の課題について、その背景や仕組みを含めて理解したうえで自ら解決策を考える力を身につける。							
講義内容	本講義では、交通政策と交通事業の基本的な役割分担、国土・都市・地域における交通政策・交通事業経営の状況を明らかにしたうえで、大都市圏・地方圏における現状と課題を整理し、国・地方公共団体や交通事業者がそれぞれどのような取組を行っているのか、具体的な事例を交えて解説する。							
講義スケジュール		タイトル			内容			
	第 1 講	オリエンテーション			講義の目的・内容や進め方、講義計画・留意点等の説明			
	第 2 講	交通政策と交通事業			国・地方公共団体における交通政策と交通事業の歴史			
	第 3 講	国土計画と総合交通体系			国土レベルの交通計画・交通政策と交通事業			
	第 4 講	大都市圏の概要とその交通			三大都市圏・政令指定都市の地域構造と総合交通体系			
	第 5 講	大都市圏の交通事業経営			大都市圏における交通事業の特徴と課題			
	第 6 講	大都市圏の鉄道整備			大都市圏における鉄道整備のしくみと財源			
	第 7 講	大都市圏の自動車交通			大都市圏における道路整備・自動車交通の状況と課題			
	第 8 講	地方圏の概要と交通			地方都市圏・中山間地域の地域構造・生活と総合交通体系			
	第 9 講	地方圏の交通事業経営			地方圏における交通事業の特徴と課題			
	第10講	地方圏の交通政策			事業者主体の地域公共交通から自治体主導交通政策への転換			
	第11講	地方圏の鉄軌道事業			地方鉄軌道事業の経営課題と維持・活性化、再構築の取組			
	第12講	地方圏の道路公共交通			道路運送事業の経営課題と補完する輸送サービス			
	第13講	地方圏の自動車交通			地方圏における交通基盤・自動車交通の状況と課題			
	第14講	高速交通体系・航空輸送			新幹線・空港・高速道路の役割と経営課題			
	第15講	地域経済と交通			地域振興・観光振興と交通の役割、環境への対応			
指導方法	スライドを活用しながら講義を進める。複数回の小テストを実施するほか、講義内で意見発表等の機会を設け、受講者によるディスカッション等を通じて理解を深める。							
事前学習	授業前の事前学習として、関連する情報を書籍やインターネット等で調べ、課題をもって授業に臨むことが必要である。1 時間 30 分程度の学習時間が目安である。							
事後学習	授業後の事後学習として、授業時に学習した内容に関連する事例について調べ、自分で考察をまとめることにより、授業で学んだ知識が定着し、理解を深めることができる。1 時間 30 分程度の学習時間が目安である。							
成績評価方法	平常点（小テスト・発表・授業内課題等）50%、本試験（筆記試験）50%							
課題（試験・レポート）に対するフィードバックの方法		必要に応じ、個別のコメント返信や講義内での紹介・コメント等によりフィードバックを行う。						
テキスト	テキストは使用しない。各講義の内容にあわせて作成・配布する。							
参考文献	家田仁／小嶋光信監修、『地域モビリティの再構築』、薫風社、2021 年 ほか（講義内で紹介する）。							
実務家教員による授業	○	教 員 経 歴	総合経済団体にてまちづくりや産業政策等に関する実務を経験したのち、ドイツにて交通政策の研究に従事。現職は公共交通関係のシンクタンク研究員。					
特記事項	実務経験を活かし、理論や建前だけでなく各地の事例を含めて説明します。積極的な参加を期待します。							

ナンバリング		科目名		サブタイトル	担当教員	配当年学期	単位数
212BT03		鉄道システム論		鉄道システムの基礎知識	城本 高輝	2 年次前期	2
科目区分		専 門	キーワード	車両、駅舎、軌道、信号、架線			
ディプロマポリシーとの対応			2. 交通産業および関連分野での基礎能力（技術・理論）を有し、関連分野で活躍可能な能力				
カリキュラムポリシーとの対応			1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける 2. 交通産業および関連分野で活躍するための基礎能力（技術・理論）を身につける				
事前に受講するとよい科目			交通概論、鉄道基礎、鉄道工学、鉄道数学、交通英語入門				
オフィスアワー			授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。				
教員への連絡方法			教員の短大メールアドレス				
講義の目的	鉄道のシステムは、車両、土木設備（軌道、構造物）、建築設備（駅舎）、電気設備（信号、電力、通信）、運転システム等によって構成されています。本講義では、こうした運行システムの基本的事項について学習します。						
到達目標	将来、鉄道業界に関わるために、学生の間に鉄道システムを理解しておくことは、予め会社の業務内容全体を理解することにつながります。多くの学生が、鉄道業界で幅広く活躍できる基本的なスキルを、若い学生のうちにしっかり身につけ、社会人に向けてスキル面での自信を深めることを到達目標とします。						
講義内容	本講義では、鉄道業界での実務家としての知見を活かしながら、大規模で複雑な鉄道システムについてわかりやすく解説します。学生にもプレゼンテーションという形で、授業に積極的に参加してもらいます。また、鉄道構造物の維持管理の問題、AI による自動運転、最新の安全対策技術、新型コロナウイルス感染拡大による影響など重要なテーマについても取り扱います。						
講義スケジュール		タイトル			内容		
	第 1 講	鉄道システムの概論①			本講義の概要・進め方		
	第 2 講	鉄道システムの概論②			技術や取り扱いの変遷		
	第 3 講	鉄道システム各論①			土木・路盤、軌道構造		
	第 4 講	鉄道システム各論②			土木・分岐器、軌道材料		
	第 5 講	鉄道システム各論③			土木・保安、保線		
	第 6 講	鉄道システム各論④			土木・土木構造物、劣化と修繕、環境影響等		
	第 7 講	鉄道システム各論⑤			電気・信号保安、閉塞、連動装置		
	第 8 講	鉄道システム各論⑥			電気・通信設備、遠隔操作、監視		
	第 9 講	鉄道システム各論⑦			電気・電路、電路保守、バッテリー電化		
	第10講	鉄道システム各論⑧			電気・変電、配給電		
	第11講	鉄道システム各論⑨			車両/運転・車両の原理と基礎、種類、台車構造等		
	第12講	鉄道システム各論⑩			車両/運転・ブレーキ、制御装置、車体構造		
	第13講	鉄道システム各論⑪			車両/運転・補機、運転保安装置、検査、保守管理		
	第14講	鉄道システム各論⑫			車両/運転・運転輸送計画、防災等安全技術		
第15講	鉄道システム各論⑬			車両/運転・特殊鉄道、最新追加事項、まとめ			
指導方法		テキストを基本として参照する授業をします。複数回、授業の時間にプレゼンテーション等の機会を設けますので、学生同士の間でも鉄道業界や鉄道システムの理解を深めてもらいます。実務家としての経験も織り交ぜ、鉄道システム等をわかりやすく解説します。					
事前学習		授業前の事前学習として、各回のテキスト該当ページを一読し、未習の用語等について明らかにし、課題をもって授業に臨むことが必要である。1 時間 30 分程度の学習時間が目安である。					
事後学習		授業後の事後学習として、授業時に学習した以外の事例について参考文献を調べ、自分で考察をまとめることにより、授業で学んだ知識が定着し、理解を深めることができる。1 時間 30 分程度の学習時間が目安である。					
成績評価方法		平常点（プレゼンテーション等）50%、本試験（筆記試験）50%					
課題（試験・レポート）に対するフィードバックの方法			授業の冒頭で解説をする。				
テキスト		鉄道総研他、『わかりやすい鉄道技術 1（鉄道概論・土木編）』、『わかりやすい鉄道技術 2（鉄道概論・電気編）』、『わかりやすい鉄道技術 3（鉄道概論・車両・運転編）』、研友社					
参考文献							
実務家教員による授業		○	教 員 経 歴	教員経歴：役所・鉄道会社等に勤務・出向経験有り。			
特記事項		実務家としての鉄道業界での経験を、授業で数多くお話しします。					

ナンバリング		科目名		サブタイトル	担当教員	配当年学期	単位数
222BT04		鉄道運転論		列車の運転業務を通じて鉄道運行安全の仕組みを知る	押立 貴志	2 年次後期	2
科目区分	専 門	キーワード		鉄道安全の仕組み、輸送機関の使命、運行計画、列車の運転、保安装置、鉄道事故			
ディプロマポリシーとの対応			2. 交通産業および関連分野での基礎能力（技術・理論）を有し、関連分野で活躍可能な能力				
カリキュラムポリシーとの対応			1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける 2. 交通産業および関連分野で活躍するための基礎能力（技術・理論）を身につける				
事前に受講するとよい科目			交通概論、鉄道基礎、鉄道工学、鉄道数学、交通英語入門、鉄道システム論				
オフィスアワー			授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。				
教員への連絡方法			教員の短大メールアドレス				
講義の目的	鉄道の運行の安全は、列車運転士の操縦や注意力だけで確保されているものではない。各種装置や関係する鉄道社員が相互に協力して鉄道安全の仕組みを構築している。トラブルに迅速に対応することは、通常と異なった対応をすることであり、「安全を十分に考えて行動」する必要がある。鉄道安全の仕組みは鉄道事故の歴史でもある。列車の運転業務を通じて、どこかの鉄道事業者でも通用する安全の仕組みについて理解を深める。						
到達目標	(1)鉄道の安全の仕組みの基本理論を習得する。(2)鉄道運転の要である列車運転士の操縦・役割、各種装置の機能や、車掌、駅員など関係鉄道社員との関係について実務的な基礎知識を習得する。(3)鉄道事故と鉄道安全の向上制度の基礎知識を習得する。						
講義内容	本科目では、鉄道安全の仕組みを、運転の立場から、基礎的事項、実務的事項、法令制度、重大鉄道事故事例をとりまぜて、全般的に解説する。輸送と何か、輸送計画、鉄道会社の組織から、個別具体の列車運転士の免許資格制度、役割・業務の基礎的事項を解説する。講義の各詳細内容は専門的であるため総合的概説に止める。事故調査制度も概説する。						
講義スケジュール		タイトル	内容				
	第1講	講義のはじめに	講義全体の進め方、輸送機関の使命、経営、輸送計画概論				
	第2講	運行計画（ダイヤ）	車両性能、基準運転時分、ランカーブ、速度制限				
	第3講	運用計画と作業	車両運用、乗務員運用、勤務体系、線路作業、線路閉鎖				
	第4講	安全の仕組みと指令	安全確保の基本、制動距離、予告・通告運転、指令業務				
	第5講	運転安全の保安装置	鉄道信号、閉そく、ATS、踏切保安設備				
	第6講	駅構内の運転安全	連動装置、駅の運転取扱い業務、駅構内作業管理と合図				
	第7講	運転免許	運転資格制度、服務と職責、認知・判断・操作				
	第8講	運転士管理と自己管理	乗務員管理、身体管理、自己管理、習熟訓練、点呼				
	第9講	運転操縦と準備	列車の操縦1、出庫点検、車両故障処置、線路横断・見張り				
	第10講	運転操縦と福知山事故	列車の操縦2、福知山線列車脱線事故事例、安全報告書				
	第11講	異常時の運転	運転規制、運転通告、信号故障時の運転、指導者、手信号				
	第12講	運転事故概説	運転事故統計、踏切事故、ホーム事故、線路内立入事故				
	第13講	列車事故と列車防護	列車衝突脱線火災事故、列車防護、三河島事故事例				
	第14講	事故調査と内部通報	事故インシデント調査、鉄道会社内部報告・通報				
第15講	講義のまとめと総復習	総復習					
指導方法	講義形式を中心とする。講義ではパワーポイントで解説を行うので、メモを取って理解することが求められる。聞くだけでなく、書くことにより、より一層の理解を深めることに期待する。						
事前学習	授業前の事前学習として、配布の資料を一読し、課題をもって授業に臨むことが必要である。普段、鉄道を利用する際などに、駅員、運転士、車掌の仕事に興味を持って欲しい。自分で見た、観察したことに注目し、講義の質疑時間に挑んで欲しい。1時間 30 分程度の学習時間が目安である。						
事後学習	授業後の事後学習として、講義で学んだことが、どのように実際の鉄道で実現されているかを、鉄道を利用する際に注意して観察して欲しい。1時間 30 分程度の学習時間が目安である。						
成績評価方法	本試験（筆記試験）50%を実施する。平常点（小テスト、レポート、質問、発言）50%とする。						
課題（試験・レポート）に対するフィードバックの方法	小テスト、レポートは、事後の講義で解説し、また、質疑を行う。						
テキスト	テキストは使用しない。各講義は配布資料（レジュメ）とパワーポイントを用いて解説する。						
参考文献	『わかりやすい鉄道技術 2（電気編）』、『わかりやすい鉄道技術 3（車両・運転編）』研友社、『わかりやすい運転操縦実務』、『実践運転概論』、『運転理論』日本鉄道運転協会						
実務家教員による授業	○	教 員 経 歴	1979-2014 年 運輸省・国土交通省勤務、技術士事務所所長、交通コンサルタント				
特記事項							

ナンバリング		科目名		サブタイトル	担当教員	配当年学期	単位数
212BT05		交通経済学		交通を経済学で捉え、現実で考える	遠藤 俊太郎	2 年次前期	2
科目区分	専 門	キーワード	交通政策、交通の費用、運賃政策、規制政策、交通投資				
ディプロマポリシーとの対応			2. 交通産業および関連分野での基礎能力（技術・理論）を有し、関連分野で活躍可能な能力				
カリキュラムポリシーとの対応			1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける 2. 交通産業および関連分野で活躍するための基礎能力（技術・理論）を身につける				
事前に受講するとよい科目			経済学 A／B、鉄道数学、鉄道システム論				
オフィスアワー			授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。				
教員への連絡方法			教員の短大メールアドレス				
講義の目的	本講義では、経済学の手法を用いて身近な交通問題を解明し、これが現実の問題分析にどのように役に立つのかを理解したうえで、客観的・論理的に考えた結論と現実とに起こっていることの相違に気づき、考える力を身につけることを目的とする。						
	ミクロ経済学の理論に基づいて交通問題を分析し交通政策を提案する「交通経済学」について、その基礎を理解したうえで、交通事業や交通政策がどのような考え方で行われているのかを把握し、実務に必要な知識を身につける。						
到達目標							
講義内容	本講義では、交通のさまざまな要因・現象について、経済学の視点からどのように考えることができるのか、実際の事業・政策にどのように関連しているのかを、テキストに沿いつつ、具体的な事例を交えて解説する。						
講義スケジュール		タイトル		内容			
	第1講	オリエンテーション		講義の目的・内容や進め方、講義計画・留意点等の説明			
	第2講	交通経済学の基礎（1）		交通政策の目的、機会費用で考える			
	第3講	交通経済学の基礎（2）		完全競争市場の資源配分、市場の失敗			
	第4講	交通サービスの性質		交通とは何か、交通サービスの特性			
	第5講	交通データの読み方		データでみる概況、データを読む際の留意点			
	第6講	交通の費用		費用の分類、費用特性による交通企業の行動			
	第7講	運賃理論（1）		運賃とは何か			
	第8講	運賃理論（2）		混雑料金の理論、ピーク・ロード・プライシング			
	第9講	運賃政策		総括原価主義、インセンティブ規制、二部料金制			
	第10講	規制政策（1）		規制の種類と根拠、規制緩和			
	第11講	規制政策（2）		環境規制、速度規制・安全規制			
	第12講	交通投資		交通プロジェクト評価、費用便益分析			
	第13講	外部補助と内部補助		補助の根拠、内部補助・外部補助			
	第14講	交通ネットワーク		ルート選択、さまざまなパラドックス			
	第15講	交通経済学の展望		本講義で扱わなかった事項、交通経済学とその周辺			
指導方法		テキストに沿って授業を進める。随時、事例・実例を交えて紹介し、交通経済学と実務の繋がりについて講義する。					
事前学習		授業前の事前学習として、各回のテキスト該当ページを一読し、未習の用語等について明らかにし、課題をもって授業に臨むことが必要である。1 時間程度の学習時間が目安である。					
事後学習		授業後の事後学習として、授業時に学習した内容に関連する事例について自ら調べ、その概要をまとめることにより、授業で学んだ知識が定着し、理解を深めることができる。2 時間程度の学習時間が目安である。					
成績評価方法		平常点（小テスト・発表・授業内課題等）50%、本試験（筆記試験）50%					
課題（試験・レポート）に対するフィードバックの方法			必要に応じ、個別のコメント返信や講義内での紹介・コメント等によりフィードバックする。				
テキスト		竹内健蔵「交通経済学入門」[新版] 有斐閣ブックス					
参考文献		竹内健蔵「なぜタクシーは動かなくてもメーターが上がるのか」、交通経済研究所「運輸と経済」各号					
実務家教員による授業	○	教 員 経 歴	総合経済団体にまちづくりや産業政策等に関する実務を経験したのち、ドイツにて交通政策の研究に従事。現職は公共交通関係のシンクタンク研究員。				
特記事項		実務経験を活かし、理論と現実の両面からアプローチします。積極的な参加を期待します。					

ナンバリング		科目名		サブタイトル		担当教員	配当年学期	単位数
212BT06		自動車交通論		現代運行管理を中心に		鹿住 良人	2 年次前期	2
科目区分		専 門	キーワード	旅客自動車運送 運行管理 安全運行 公共交通 ライドシェア				
ディプロマポリシーとの対応			2. 交通産業および関連分野での基礎能力（技術・理論）を有し、関連分野で活躍可能な能力					
カリキュラムポリシーとの対応			1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける 2. 交通産業および関連分野で活躍するための基礎能力（技術・理論）を身につける					
事前に受講するとよい科目			交通概論、鉄道基礎、鉄道工学、鉄道数学、交通英語入門、交通英語、鉄道システム論					
オフィスアワー			授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。					
教員への連絡方法			教員の短大メールアドレス					
講義の目的	トラック、バス、タクシーなど自動車による輸送手段は広く普及し、人々の暮らしや経済活動の多くの役割を担っています。それに伴い交通事故多発が社会問題化し、安全への取組みが重要になりました。近年においても観光バスや観光船の重大事故により、運行管理のあり方が議論となりました。「安全」のために事業者はどうすべきか。自動車交通を中心にこれまでの事例を踏まえて考察します。							
到達目標	社会で起きている自動車にまつわる事象を検証し、その原因や課題について議論できるようになることを目的とします。また、運行管理者資格（旅客）の取得にもつながるよう、関連法規や実務的な知識を習得することを目指します。							
講義内容	① 運行管理の実践について説明。 ② 運行管理者資格試験の科目である各法律について説明。 ③ 運行管理者資格試験の対策。 ④バス、タクシーなど交通に関連したニュース、報道をもとに実社会での関わりを解説。 ⑤パワーポイントや映像を用いた講義形式							
講義スケジュール		タイトル		内容				
	第 1 講	オリエンテーション		授業概要や運営方法等の説明				
	第 2 講	運行管理とは		事故事例をもとに重要性を解説				
	第 3 講	道路運送法（1）		運転者の選任、事故報告				
	第 4 講	道路運送法（2）		過労運転の防止、点呼、乗務員台帳・乗務員証				
	第 5 講	道路運送法（3）		運行管理者の業務、事業者の管理義務				
	第 6 講	道路運送車両法		車両法の目的、登録制度、検査制度、点検・整備				
	第 7 講	道路交通法（1）		道路交通法の目的、道路交通法における車両とは				
	第 8 講	道路交通法（2）		通行方法、駐停車禁止、追い越し禁止場所				
	第 9 講	道路交通法（3）		道路標識、徐行、運転者の遵守事項				
	第10講	事例研究		ライドシェア最新動向、その他映像視聴、小レポート				
	第11講	労働基準法（1）		総則その 1				
	第12講	労働基準法（2）		総則その 2、就業規則				
	第13講	労働基準法（3）		改善基準 1 バス				
	第14講	労働基準法（4）		改善基準 2 タクシー				
第15講	まとめ		総括と指針					
指導方法		パワーポイントや映像を用いた講義形式を基本とし、理解度確認のため小テストも行います。授業の中で随時質問をしますので、それに対し積極的に発言することが求められます。そうすることで関心を深めて頂き、学習の定着を図ります。						
事前学習		新聞・ニュースで取り上げられていることや最近の事象の中で、講座に関連する内容を事前に調べ、キーワードの理解と疑問点の確認をしてから授業に臨むことにより、学習内容がより深く記憶に残ります。学習時間の目安：1 時間 30 分						
事後学習		授業内容を整理し、参考資料等で周辺事項を含めて再度確認することで知識が定着します。運行管理者試験の過去問題の関連項目をあたってみることを推奨。学習時間の目安：1 時間 30 分						
成績評価方法		本試験の結果と平常点評価を総合して行います。 本試験（筆記試験）70% 平常点（授業内課題）30%						
課題（試験・レポート）に対するフィードバックの方法			授業の冒頭で前回講義小テストの解説。同時に、Classroom にも内容掲載。					
テキスト		なし。必要な資料は配布します。						
参考文献		独立行政法人自動車事故対策機構『運行管理者基礎講習用テキスト本編』2025 年 秋山義継著『現代交通論』創成社 2006 年 秋山義継編著『地域振興論』創成社 2017 年						
実務家教員による授業	○	教 員 経 歴	平成 19 年より 株式会社かすみ交通 代表取締役					
特記事項								

ナンバリング		科目名		サブタイトル	担当教員	配当年学期	単位数
222BT07		交通環境論		環境政策・環境経営論から考える交通事業	笠井 文雄	2 年次後期	2
科目区分	専 門	キーワード		交通政策、環境政策、環境経営、大気汚染問題、エネルギー問題			
ディプロマポリシーとの対応			2. 交通産業および関連分野での基礎能力（技術・理論）を有し、関連分野で活躍可能な能力				
カリキュラムポリシーとの対応			1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける 2. 交通産業および関連分野で活躍するための基礎能力（技術・理論）を身につける				
事前に受講するとよい科目			交通概論、鉄道基礎、鉄道工学、鉄道数学、交通英語入門、交通英語、交通史、交通政策論				
オフィスアワー			授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。				
教員への連絡方法			教員の短大メールアドレス				
講義の目的	鉄道、自動車（道路輸送）、航空などの交通事業は、あらゆる場面で環境問題に密接に関わっています。一言で環境問題と言っても、交通事業においては温室効果ガスの排出、大気汚染、騒音など多岐にわたっており、それぞれの問題の対策には、個々の原因や背景を理解する必要があります。本講義では、交通事業を取り巻く環境問題を環境政策論や環境経営論の視点から理解してもらいます。						
到達目標	本講義では、①社会人として知っておくべき環境政策・環境経営に関する基礎概念を身につけること、②交通事業における環境対策について正確に理解すること、③企業の環境対策に関する自分なりの見解を持てるようになること、の3点を主な到達目標とします。						
講義内容	本講義では、交通事業における環境問題に関する重要概念を網羅的に解説するとともに、鉄道事業者をはじめとする交通関連企業の取組事例を紹介していきます。具体的には、社会全体の環境問題の範囲や制度的枠組み、環境問題を解決するための手法などについて、交通事業を例に取り上げるとともに、交通事業特有の環境問題とその対応策について説明していきます。						
講義スケジュール		タイトル			内容		
	第1講	オリエンテーション			授業の進め方、講義計画等の説明		
	第2講	環境政策 1			環境問題の変遷と分類／緑地保全と生物多様性		
	第3講	環境政策 2			政策手段としての規制・課税・補助金		
	第4講	環境政策 3			気候変動・地球温暖化問題／排出取引		
	第5講	環境政策 4			SDGs と ESG 投資／交通インフラの環境影響評価		
	第6講	環境経営 1			環境報告書と統合報告書／シェアリングエコノミー		
	第7講	環境経営 2			国際規格と外部認証制度／ロードプライシング		
	第8講	環境経営 3			グリーン購入と廃棄物処理／ライフサイクルアセスメント		
	第9講	交通の大気汚染問題 1			自動車排出ガス規制と環境技術の進展		
	第10講	交通の大気汚染問題 2			モーダルシフト政策／都市交通の駐車対策／低燃費タイヤ		
	第11講	エネルギー問題 1			自動車事業の事例（電気自動車、燃料電池車）		
	第12講	エネルギー問題 2			鉄道事業の事例		
	第13講	エネルギー問題 3			航空事業の事例／バイオ燃料		
	第14講	騒音問題			交通騒音の種類と特性／技術的対策／経済的手法と法的解決		
第15講	まとめ			今後の交通事業と環境問題			
指導方法		パワーポイントによるスライドを用いた講義を中心に行います。毎回、受講生には講義内容に関するコメントや復習テストを提出してもらいます。					
事前学習		授業前の事前学習として、各回の講義資料を一読し、未習の用語等について明らかにし、課題をもって授業に臨むことが必要になります。1 時間 30 分程度の学習時間が目安です。					
事後学習		授業後の事後学習として、授業時に学習した以外の事例について参考文献を調べ、自分で考察をまとめることにより、授業で学んだ知識が定着し、理解を深めることができます。1 時間 30 分程度の学習時間が目安です。					
成績評価方法		平常点（授業内での提出物）60%、本試験（期末レポート）40%で評価します。とりわけ授業内での提出物のうち、講義内容に対するコメントを重視します。また、期末レポートの書き方や評価方法について、講義中に説明します。					
課題（試験・レポート）に対するフィードバックの方法			毎回提出していただく課題に対する解説や講評を次回講義の冒頭に行います。				
テキスト		使用しません。講義資料ファイルを GoogleClassroom に事前にアップロードしますが、講義中にメモをノートにとる（またはパソコンに入力する）が必要になります。					
参考文献		講義中に随時紹介します。					
実務家教員による授業			教 員 経 歴				
特記事項		前提となる履修条件はありませんが、交通事業の基礎的な知識があると理解が深まります。					

ナンバリング		科目名		サブタイトル	担当教員	配当年学期	単位数
222BT08		交通需要論		交通需要（鉄道輸送量）が変動する要因とは	武藤 雅威	2 年次後期	2
科目区分	専 門	キーワード		派生需要、交通統計、混雑緩和、交通需要マネジメント、交通需要予測			
ディプロマポリシーとの対応		2. 交通産業および関連分野での基礎能力（技術・理論）を有し、関連分野で活躍可能な能力					
カリキュラムポリシーとの対応		1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける 2. 交通産業および関連分野で活躍するための基礎能力（技術・理論）を身につける					
事前に受講するとよい科目		交通概論、鉄道基礎、鉄道工学、鉄道数学、交通英語入門、交通史、交通政策論					
オフィスアワー		授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。					
教員への連絡方法		教員の短大メールアドレス					
講義の目的	交通需要とは、人や物が移動することへの欲求やその量のことです。どのような要因で交通需要は変動するのか、交通需要が多過ぎる場合にはどのように調整するのか等、鉄道を中心に、交通の現場における実践例を通じてその基礎知識を習得します。また、「なぜ、交通需要予測を行うのか」、「どの交通機関を利用するのか（交通機関分担）」、「どの経路を通るのか（経路配分）」という交通需要予測の基本的な考え方とその応用を学びます。						
到達目標	これからの日本では人口減少や急速な高齢化社会が進展する一方で、新たな新幹線の開業等により交通ネットワークのさらなる充実が期待されます。日本の交通需要が変動をしていく要因は多くあります。これからの交通業界を背負って立っていく皆さんが、例えば、「日本の交通の将来像」について、自身の考えを持ち、議論ができるようになることを目指します。						
講義内容	交通需要は社会経済の情勢や技術革新、人々の行動変化に影響を受けます。新型コロナ禍で鉄道等の交通需要は大きく減少しました。このような交通需要が増減する要因について鉄道輸送量における事例を中心に、わかりやすく解説します。皆さんには、提示された課題から自らの考えをまとめる時間を与え、レポート作成やプレゼンテーションにつなげていく進め方とします。						
講義スケジュール		タイトル			内容		
	第1講	オリエンテーション			進め方と評価方法、交通需要とは		
	第2講	公共交通需要の推移			日本の公共交通で何が起きてきたのか		
	第3講	交通統計の利用①			都市鉄道データ分析の実際		
	第4講	交通統計の利用②			幹線・地方鉄道データ分析の実際		
	第5講	需要調整による混雑緩和策			通勤・通学の苦痛を少しでも和らげるには		
	第6講	安定的な通勤需要の確保			なぜ鉄道会社は沿線価値の向上を競うのか		
	第7講	交通需要マネジメント			道路交通の渋滞・混雑の緩和策、次世代交通教育とは		
	第8講	ICT で需要を誘発・管理			自動改札機と交通系 IC カードの開発経緯、MaaS とは		
	第9講	地方鉄道の需要を維持する			なぜ地方鉄道の需要は衰退したのか、どう維持するか		
	第10講	コロナ禍による需要変動			鉄道会社はコロナ禍にどう対応したか、今後どうなるか		
	第11講	訪日外国人需要の開拓			訪日外国人客に対する鉄道のおもてなしと課題		
	第12講	交通需要予測の基本			なぜ、交通需要を予測するのか、費用便益分析とは		
	第13講	交通機関・経路選択			鉄道と自動車、東海道と北陸、どちらで行きますか		
	第14講	乗換の移動抵抗			交通機関間・鉄道路線間の乗換は移動が大変		
第15講	ディスカッション			交通需要の問題について考えよう（グループワーク）			
指導方法		初回と最終回を除き、本日のテーマに関する講義を約 60 分行います。残りの時間でミニレポート課題を提示し、レポート作成時間を設けた後、ディスカッション（発表と質疑応答）をします。					
事前学習		事前配布する講義用パワーポイント（PDF ファイル）にあらかじめ目を通しておき、内容を頭に入れて受講すれば、講義内容への理解が深まります。1 時間 30 分程度の学習時間が目安である。					
事後学習		事後学習として、講義中に作成したミニレポートの記述内容を振り返り、自分で新たな考察をまとめることにより、講義で学んだ知識が定着し、より理解が深まります。1 時間 30 分程度の学習時間が目安である。					
成績評価方法		本試験 50%（レポート）、平常点 50%（通常講義時のミニレポートとディスカッション参加 40%、第 15 講ディスカッション 10%）					
課題(試験・レポート)に対するフィードバックの方法		レポート提出と評価を Classroom で行います。優秀なミニレポートには平常点内で加点をします。					
テキスト		毎回、パワーポイントの PDF ファイルを Classroom で事前配布します。					
参考文献		数字でみる鉄道 2024（運輸総合研究所発行）					
実務家教員による授業			教 員 経 歴				
特記事項							

ナンバリング		科目名		サブタイトル	担当教員	配当年学期	単位数
122BT09		交通英語入門1		コミュニケーションから始める 交通英語	田島 樹里奈	1 年次後期	2
科目区分	専 門	キーワード		接客英会話入門、交通機関で役立つ英会話（入門）			
ディプロマポリシーとの対応			2. 交通産業および関連分野での基礎能力（技術・理論）を有し、関連分野で活躍可能な能力				
カリキュラムポリシーとの対応			1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける 2. 交通産業および関連分野で活躍するための基礎能力（技術・理論）を身につける				
事前に受講するとい科目			基礎英語				
オフィスアワー			月・火・土（時間は事前に相談して下さい）				
教員への連絡方法			教員の短大メールアドレス				
講義の目的	本授業の目的は、これまでの学習内容を活用しながら、交通英語に必要な基礎力を身につけることである。そのために、まずは「交通英語」がどのようなものなのかを知り、少しずつ交通英語に必要な単語やフレーズを学びながら、語彙や表現力を増やしていく。接客に必要なリスニング力を鍛えるため、繰り返しリスニングやディクテーションを行い、耳を鳴らしていく。						
	到達目標						
(1) 英語の基礎を復習しながら、交通に関わる語彙を増やす。 (2) 将来、現場で使うことを想定しながら、実用的な表現法を学び交通英語に慣れる。 (3) リスニング力を強化し、複数回聞けば、会話の主旨をある程度正確に理解することができる。							
講義内容							
講義スケジュール		タイトル			内容		
	第1 講	イントロダクション			交通英語とビジネス英語		
	第2 講	基礎フレーズ①			覚えておきたい接客表現		
	第3 講	基礎フレーズ②			接客中に困った時の表現・聞き返す時の表現		
	第4 講	鉄道に関する基礎表現①			列車の種類・駅構内の施設		
	第5 講	鉄道に関する基礎表現②			切符の種類とその説明		
	第6 講	数字・お金の表現①			運賃を聞かれたら…		
	第7 講	数字・お金の表現②			お金の表現法をマスターしよう		
	第8 講	前半の復習			接客表現の使い回し		
	第9 講	駅でのお客様対応①			電車の行き先を聞かれたら		
	第10講	駅でのお客様対応②			乗り換えについて聞かれたら		
	第11講	駅でのお客様対応③			電車の発車時刻・到着時刻を聞かれたら		
	第12講	時間の表現			時間の表現法をマスターしよう		
	第13講	交通系・必須表現①			所要時間を聞かれたら		
	第14講	交通系・必須表現②			目的地までの行き方を聞かれたら		
	第15講	まとめ			質問に簡潔に答えるための表現		
指導方法		日常生活や将来の業務で使用できる簡単な英会話表現を身につけるため(1)使い易いフレーズを繰り返し発話しながら練習する（ペアワークやグループワークを含む）。(2)必要に応じて文法事項の復習をする。(3)定期的に小テストを行うことにより自分自身の定着度合いを確認する。					
事前学習		分からない単語などは授業前に調べ、前回までの復習をしっかりしておくこと。自宅で学習する際は、できるだけ声に出して発話（音読）練習をすること。1 時間 30 分程度の学習時間が目安です。					
事後学習		文法事項などで分からない部分は放置せずに遡って復習をすること。定期的に単語などの小テストを行うので、8 割以上の得点を目指して学習すること。1 時間 30 分程度の学習時間が目安です。					
成績評価方法		本試験(筆記試験)：50(%)、平常点：小テスト 25(%)、授業内課題・発言 25(%)。授業への積極的な参加を重視。					
課題(試験・レポート)に対する フィードバックの方法		授業内で行うか、Classroom を使う。					
テキスト		適宜、プリント教材や資料を配布する。					
参考文献		声に出して発話することを習慣づけ、日々の継続的な学習を心掛けることで必ず力が付きます。 原則、前期と同じ担当教員のクラスを受講すること。その他詳細は、Classroom にて指示します。					
実務家教員による授業			教 員 経 歴				
特記事項		週 1 回の授業だけでは語学を習得することはできません。積極的に英語に触れ、定期的な学習を心がけて下さい。					

ナンバリング		科目名		サブタイトル	担当教員	配当年学期	単位数
122BT10		交通英語入門2		コミュニケーションから始める交通英語	福山 圭介	1 年次後期	2
科目区分	専 門	キーワード		旅行英会話、観光業の英語、交通産業の英語			
ディプロマポリシーとの対応			2. 交通産業および関連分野での基礎能力（技術・理論）を有し、関連分野で活躍可能な能力				
カリキュラムポリシーとの対応			1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける 2. 交通産業および関連分野で活躍するための基礎能力（技術・理論）を身につける				
事前に受講するとよい科目			基礎英語				
オフィスアワー			授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。				
教員への連絡方法			教員の短大メールアドレス				
講義の目的	高等学校までの文法・読解中心の英語学習ではなく、音声と会話表現を学習の入り口とすることで、1 からの英語習得を目指します。後期の授業では、実際に交通機関で使われる表現を取り入れることで、受講生の英語に対する興味・関心を高めます。						
到達目標	(1)英語の基礎を復習しながら、交通に関わる語彙を増やす。(2)将来、現場で使うことを想定しながら、実用的な表現法を学び交通英語に慣れる（観光英語検定 3 級程度）。						
講義内容	私たちが日常的に利用する交通機関では、様々なコミュニケーションが交わされています。日本語では難なく説明できることも、突然英語で尋ねられて言葉が出てこなかったという経験をした人もいるでしょう。本授業では日常で使える英語を学びながら、交通英語で使える表現や語彙を増やしていきます。						
講義スケジュール		タイトル		内容			
	第 1 講	オリエンテーション		授業方針の説明と簡単な聞き取り問題			
	第 2 講	場面別英会話～生活編(1)		レストランで①②			
	第 3 講	場面別英会話～生活編(2)		レストランで③、人を招待する			
	第 4 講	場面別英会話～生活編(3)		家庭を訪問する、人をもてなす			
	第 5 講	場面別英会話～生活編(4)		ショッピング①②			
	第 6 講	場面別英会話～生活編(5)		ショッピング③、電話①			
	第 7 講	場面別英会話～生活編(6)		電話②、病気になったら			
	第 8 講	場面別英会話～生活編(7)		病院へ行く、			
	第 9 講	海外旅行編(1)		空港で、飛行機のなかで			
	第10講	海外旅行編(2)		ホテルで①②			
	第11講	海外旅行編(3)		ホテルで③、道をたずねる			
	第12講	海外旅行編(4)		交通機関を利用する、観光案内所で			
	第13講	海外旅行編(5)		観光ツアーに参加する、観光地で			
	第14講	海外旅行編(6)		エンターテインメントを楽しむ、トラブルに遭ったら			
	第15講	まとめと演習		これまでの復習演習			
指導方法		テキストの内容に沿って上記のように進めていきます。テキストの他に、交通機関で使われる英語音声の聞き取りや、交通関係の英語動画を視聴して、頻出するフレーズの解説などを行います。					
事前学習		授業前の事前学習として、授業内で指示された英語の映像・資料に目を通しておくこと。 1 時間 30 分程度の学習時間が目安である。					
事後学習		授業後の事後学習として、授業内容をしっかり復習し、期限内に Google Classroom に課題を提出すること。 1 時間 30 分程度の学習時間が目安である。					
成績評価方法		本試験 50%＋平常点(課題点)50%					
課題(試験・レポート)に対するフィードバックの方法			授業内で課題の講評を行う。必要に応じて Google Classroom でフィードバックを行う。				
テキスト		井口紀子『1 から出直し書き込み式英会話 BOOK』成美堂出版、2008 年（基礎英語Ⅱで購入済みの場合は新たに購入する必要はありません）					
参考文献		授業内で適宜指示します。					
実務家教員による授業			教 員 経 歴				
特記事項		原則として前期の基礎英語 2 のクラス分けと同じメンバーで行います。					

ナンバリング		科目名		サブタイトル	担当教員	配当年学期	単位数
212BT11		交通英語 1A		接客応対に必要な表現を学ぶ	田島 樹里奈	2 年次前期	2
科目区分	専 門	キーワード	接客英会話、交通機関の案内、英語対応能力				
ディプロマポリシーとの対応			2. 交通産業および関連分野での基礎能力（技術・理論）を有し、関連分野で活躍可能な能力				
カリキュラムポリシーとの対応			1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける 2. 交通産業および関連分野で活躍するための基礎能力（技術・理論）を身につける				
事前に受講するとよい科目			交通概論、基礎英語、交通英語入門				
オフィスアワー			月・火・土（時間は事前に相談して下さい）				
教員への連絡方法			教員の短大メールアドレス				
講義の目的	本授業の目的は、実際に交通関連の職場で働くことを想定し、適切に対応できるようになるための基礎力を身につけることである。特に、グローバル化した現代社会に対応するべく、日常生活の中でも練習・応用できるフレーズを学びながら、少しずつ交通英語に必要な英語力を鍛えていく。						
到達目標	(1) お客様の質問や要望を大まかに把握するためのリスニング力を身につける。 (2) お客様の対応に必要な、簡単な単語やフレーズをしっかりと身につける。 (3) 交通英語に対する抵抗感をなくし、実践の場で使えるように基礎を固める。						
講義内容	接客業においては、お客様の要望に耳を傾け、適切に対応することは必須の課題である。まずは、お客様が話す内容のうち、主要部分をきちんと聞き取るためのリスニング力を鍛え、簡単な表現で返答するための対応力を身につけていく。内容は「交通英語入門」と重複するものもあるが、ただの暗記ではなく実践の場できちんと使えるようにするため、ペアワークやグループワークで発話練習を繰り返し行っていく。						
講義スケジュール		タイトル		内容			
	第 1 講	イントロダクション		接客のための丁寧な表現			
	第 2 講	数字に関する表現		運賃と時間表現の確認			
	第 3 講	乗車・降車の案内		乗車すべき電車を案内する			
	第 4 講	乗車券の案内(1)		乗車券の見方を説明する			
	第 5 講	乗車券の案内(2)		観光客向けの切符の案内			
	第 6 講	運賃の案内		支払いに関する案内			
	第 7 講	前半のまとめ		お客様に伝わるように案内しよう			
	第 8 講	交通系 IC カードの利用(1)		IC 乗車券の購入方法			
	第 9 講	交通系 IC カードの利用(2)		IC 乗車券のチャージ方法			
	第10講	道案内(1)		道案内に必要な様々な表現			
	第11講	道案内(2)		ホームや駅構内の施設を案内する			
	第12講	駅の設備利用(1)		駅構内の設備について			
	第13講	駅の設備利用(2)		設備に関する説明			
	第14講	積極的な接客表現		困っている人への声かけ			
第15講	まとめ		伝えたいことを伝えるために				
指導方法	日常生活や将来の業務で利用できる簡単な英会話表現を身につけるため(1)使い易いフレーズを繰り返し発話しながら練習する（ペアワークやグループワークを含む）。(2)必要に応じて文法事項の復習をする。(3)定期的に小テストを行うことにより自分自身の定着度合いを確認する。						
事前学習	分からない単語などは授業前に調べておくこと。前回までの復習をしっかりしておくこと。自宅で学習する際は、できるだけ声に出して発話（音読）練習をすること。1 時間 30 分程度の学習時間が目安です。						
事後学習	文法事項などで分からない部分は放置せずに遡って復習をすること。定期的に単語などの小テストを行うので、8 割以上の得点を目指して学習すること。1 時間 30 分程度の学習時間が目安です。						
成績評価方法	本試験(筆記試験)：50(%)、平常点：小テスト 25(%)、授業内課題・発言 25(%)。授業への積極的な参加を重視。						
課題(試験・レポート)に対するフィードバックの方法		授業内で行うか、Classroom を使う。					
テキスト	適宜、プリント教材や資料を配布する。						
参考文献	東日本旅客鉄道(株)『現場で役立つ 鉄道ビジネス英語』成山堂、2022 年。必要に応じて授業内で適宜紹介する。						
実務家教員による授業		教 員 経 歴					
特記事項	週 1 回の授業だけでは語学を習得することはできません。積極的に英語に触れ、定期的な学習を心がけて下さい。						

ナンバリング		科目名		サブタイトル	担当教員	配当年学期	単位数
222BT12		交通英語 1B		接客で必要な表現法を身につける	田島 樹里奈	2 年次後期	2
科目区分	専 門	キーワード		接客英会話、交通機関の案内、英語対応能力			
ディプロマポリシーとの対応			2. 交通産業および関連分野での基礎能力（技術・理論）を有し、関連分野で活躍可能な能力				
カリキュラムポリシーとの対応			1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける 2. 交通産業および関連分野で活躍するための基礎能力（技術・理論）を身につける				
事前に受講するとよい科目			交通英語入門、交通英語 1A				
オフィスアワー			月・火・土（時間は事前に相談して下さい）				
教員への連絡方法			教員の短大メールアドレス				
講義の目的	本授業の目的は、実際に交通関連の職場で働くことを想定し、適切に対応できるようになるための基礎力を身につけることである。特に、グローバル化した現代社会に対応するべく、日常生活の中でも練習・応用できるフレーズを学びながら、少しずつ交通英語に必要な英語力を鍛えていく。						
到達目標	(1) お客様の質問や要望を大まかに把握するためのリスニング力を身につける。 (2) お客様の対応に必要な、簡単な単語やフレーズをしっかりと身につける。 (3) 交通英語に対する抵抗感をなくし、実践の場で使えるように基礎を固める。						
講義内容	本授業では、出来る限り正確に相手の英語を聞き取るためのリスニング力を鍛え、これまで学んできた内容を臨機応変に活用できるようにするための力を身につけていく。接客業では、お客様のニーズに対して的確に・臨機応変に対応する必要がある。そのためにも本授業では、繰り返しの練習を重視する。受講者自身も実際の現場で活用できるよう、授業内での失敗は恐れず、訓練の場として活用してもらいたい。						
講義スケジュール		タイトル			内容		
	第 1 講	イントロダクション			覚えておきたい接客表現		
	第 2 講	道案内・駅構外編			駅から目的地までの行き方を案内する		
	第 3 講	運賃に関する案内(1)			チャージ方法・乗り越し精算を説明する		
	第 4 講	運賃に関する案内(2)			新幹線・グリーン車の特別料金について		
	第 5 講	運賃に関する案内(3)			払い戻しの説明		
	第 6 講	遅延の案内(1)			遅延の理由説明と遅延証明書の発行		
	第 7 講	遅延の案内(2)			振替輸送について		
	第 8 講	前半の復習			丁寧な接客のために		
	第 9 講	時間表現の復習			最終電車・始発電車の時刻を案内する		
	第10講	困っているお客様の対応(1)			線路への落とし物		
	第11講	困っているお客様の対応(2)			失くし物の対応・遺失物取扱所への行き方		
	第12講	困っているお客様の対応(3)			遺失物の特徴を説明してもらう		
	第13講	トラブル対応(1)			鉄道・駅構内で緊急事態が発生したら		
	第14講	トラブル対応(2)			お客様同士のトラブル対応		
第15講	まとめ			現場で焦らず対応するために			
指導方法		日常生活や将来の業務においても使用できる簡単な英会話表現を身につけるため、(1)配布資料を参考に、使い易いフレーズを繰り返し発話しながら練習をする。(2)必要に応じて文法事項の復習をする。(3)単語テストを繰り返し行うことにより、交通英語に必要な語彙を増やす。					
事前学習		分からない単語などは授業前に調べておくこと。前回までの復習をしっかりしておくこと。自宅で学習する際は、できるだけ声に出して発話（音読）練習をすること。1 時間 30 分程度の学習時間が目安です。					
事後学習		文法事項などで分からない部分は放置せずに遡って復習をすること。定期的に単語などの小テストを行うので、8 割以上の得点を目指して学習すること。1 時間 30 分程度の学習時間が目安です。					
成績評価方法		本試験(筆記試験)：50(%)、平常点：小テスト 25(%)、授業内課題・発言 25(%)。授業への積極的な参加を重視。					
課題(試験・レポート)に対するフィードバックの方法		授業内で行うか、Classroom を使う。					
テキスト		適宜、プリント教材や資料を配布する。					
参考文献		東日本旅客鉄道(株)『現場で役立つ 鉄道ビジネス英語』成山堂、2022 年。必要に応じて授業内で適宜紹介する。					
実務家教員による授業			教 員 経 歴				
特記事項		週 1 回の授業だけでは語学を習得することはできません。積極的に英語に触れ、定期的な学習を心がけて下さい。					

ナンバリング		科目名		サブタイトル	担当教員	配当年学期	単位数
212BT13		交通英語2A		交通英語の基礎力の習得	福山 圭介	2 年次前期	2
科目区分	専 門	キーワード		Travel, Transportation, Tourism, Basic Expressions			
ディプロマポリシーとの対応			2. 交通産業および関連分野での基礎能力（技術・理論）を有し、関連分野で活躍可能な能力				
カリキュラムポリシーとの対応			1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける 2. 交通産業および関連分野で活躍するための基礎能力（技術・理論）を身につける				
事前に受講するとい科目			基礎英語、交通英語入門				
オフィスアワー			授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。				
教員への連絡方法			教員の短大メールアドレス				
講義の目的	将来、鉄道をはじめとした交通の現場で活躍するための英語の基礎力をつけることを目的とします。具体的には、駅窓口係・鉄道および航空機の乗務員・鉄道技術者などとして働くうえで必要になる英語のリスニング・スピーキングの基礎力を養います。						
	到達目標						
講義内容			(1)入門レベルについて一層のレベルアップとその定着、(2)交通機関で用いることが想定される表現を学び、使いこなせるようになること（観光英語検定 2 級程度）。				
講義スケジュール	1 年次の交通英語入門に続き、音声の聞き取りを中心とした英語学習を行います。音声教材は交通英語入門で利用したものと同様、観光や交通機関に関連するものを主に使用します。内容は 1 年生の時より難しくなりますが、皆さんに馴染みの深い題材をできるだけ取り上げたいと思いますので、毎回の復習を忘れず取り組んで下さい。						
		タイトル			内容		
	第 1 講	オリエンテーション			授業方針の説明と簡単な聞き取り問題		
	第 2 講	Travel			旅行一般に関する表現		
	第 3 講	Jobs and people			業務や職種に関する表現		
	第 4 講	Getting on the Plane			飛行機への搭乗に関連する表現		
	第 5 講	At the Immigration			出入国管理や税関で使われる表現		
	第 6 講	At the Airport			空港内での英語		
	第 7 講	Hotel (Accomodations)			ホテルや宿泊施設で使われる表現		
	第 8 講	Restaurant			食事に関する表現		
	第 9 講	Sightseeing			観光に関する表現		
	第10講	Shopping			買い物をする際の表現		
	第11講	Transportation			交通機関を利用する際の表現		
	第12講	Problems and Complaints			問題と苦情に関する表現		
	第13講	Traveling in Japan(1)			旅館・温泉などに関する英語		
	第14講	Traveling in Japan(2)			国内の観光・食事・お土産等に関する英語		
第15講	まとめと演習			これまでの復習演習			
指導方法		上記の講義スケジュールに沿ってテキストを進めていきます。講義はパワーポイントスライドによる座学に加え、実践的なスキット演習も取り入れます。					
事前学習		授業前の事前学習として、授業内で指示された資料に目を通し、web 検索などで概要を調べておくこと。 1 時間 30 分程度の学習時間が目安である。					
事後学習		授業後の事後学習として、授業内容をしっかり復習し、期限内に Google Classroom に課題を提出すること。 1 時間 30 分程度の学習時間が目安である。					
成績評価方法		本試験 50%＋平常点(課題点)50%					
課題(試験・レポート)に対するフィードバックの方法			授業内で課題の講評を行う。必要に応じて Google Classroom でフィードバックを行う。				
テキスト		観光英検センター編『ベーシック観光英語』,三修社, 2014 年.					
参考文献		授業内で適宜指示します。					
実務家教員による授業			教 員 経 歴				
特記事項		テストによるクラス分けを行います。指定されたクラスを受講して下さい。					

ナンバリング		科目名		サブタイトル	担当教員	配当年学期	単位数
222BT14		交通英語2B		現場での活躍のための実力養成	福山 圭介	2 年次後期	2
科目区分	専 門	キーワード		Travel, Transportation, Tourism, Practical Expressions			
ディプロマポリシーとの対応			2. 交通産業および関連分野での基礎能力（技術・理論）を有し、関連分野で活躍可能な能力				
カリキュラムポリシーとの対応			1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける 2. 交通産業および関連分野で活躍するための基礎能力（技術・理論）を身につける				
事前に受講するとよい科目			基礎英語、交通英語入門、交通英語 A				
オフィスアワー			授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。				
教員への連絡方法			教員の短大メールアドレス				
講義の目的	将来、鉄道をはじめとした交通の現場で活躍するための英語の応用・実践力をつけることを目的とします。具体的には、駅窓口係・鉄道および航空機の乗務員・鉄道技術者などとして働くうえで必要になる英語のリスニング・スピーキングの標準的な力を養います。						
	到達目標						
交通英語 2A レベル程度の基礎的な表現を前提に、(1)相手の立場に立った英語での対応・表現ができるようになること、(2)状況に応じて過不足なく正確に英語で対応・表現ができるようになること（観光英語検定 2 級程度）							
講義内容							
交通英語 2A の応用・実践編として、日本の交通機関を利用する英語話者に対応するための実践力を身につけます。また海外の交通機関についても英語で学習し、日本のシステムとの違いなどを議論します。							
講義スケジュール		タイトル			内容		
	第 1 講	オリエンテーション			授業方針の説明と簡単な聞き取り問題		
	第 2 講	Traveling in Japan(1)			Transportation from the Airport		
	第 3 講	Traveling in Japan(2)			Explaining how to buy a train ticket		
	第 4 講	Traveling in Japan(3)			Explaining Japan Rail Pass and Suica		
	第 5 講	Traveling in Japan(4)			Taking a Taxi		
	第 6 講	Traveling in Japan(5)			Taking a Bus		
	第 7 講	Traveling in Japan(6)			Explaining Subway Map		
	第 8 講	Traveling in Japan(7)			City Tours in Tokyo		
	第 9 講	Trains Overseas(1)			North America		
	第10講	Trains Overseas(2)			England, Australia		
	第11講	Trains Overseas(3)			France, Italy, Spain		
	第12講	Trains Overseas(4)			Germany, Northern Europe		
	第13講	Trains Overseas(5)			Eastern Europe, South America		
	第14講	Trains Overseas(6)			Asia		
	第15講	まとめと演習			これまでの復習演習		
指導方法		上記の講義スケジュールに沿って、さまざまな聞き取り、映像の視聴、英語のクイズなどを行います。講義はパワーポイントスライドによる座学に加え、実践的なスキット演習も取り入れます。					
事前学習		授業前の事前学習として、授業内で指示された資料に目を通し、web 検索などで概要を調べておくこと。 1 時間 30 分程度の学習時間が目安である。					
事後学習		授業後の事後学習として、授業内容をしっかり復習し、期限内に Google Classroom に課題を提出すること。 1 時間 30 分程度の学習時間が目安である。					
成績評価方法		本試験 50%＋平常点(課題点)50%					
課題(試験・レポート)に対するフィードバックの方法			授業内で課題の講評を行う。必要に応じて Google Classroom でフィードバックを行う。				
テキスト		テキストは指定しません。					
参考文献		観光英検センター編『ベーシック観光英語』,三修社, 2014 年.					
実務家教員による授業			教 員 経 歴				
特記事項		原則として前期の交通英語 2 A のクラス分けと同じメンバーで行います。					

ナンバリング		科目名		サブタイトル		担当教員		配当年学期		単位数	
212BT15		交通史		交通体系の形成と歴史的発展		宗像 俊輔		2 年次前期		2	
科目区分		専 門		キーワード		鉄道、自動車、船舶、航空機、物流					
ディプロマポリシーとの対応				2. 交通産業および関連分野での基礎能力（技術・理論）を有し、関連分野で活躍可能な能力							
カリキュラムポリシーとの対応				1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける 2. 交通産業および関連分野で活躍するための基礎能力（技術・理論）を身につける							
事前に受講するとよい科目				交通概論、交通英語入門、鉄道基礎、鉄道工学、鉄道数学							
オフィスアワー				月曜日・火曜日・土曜日（要確認）							
教員への連絡方法				s.munakata@toko.hosho.ac.jp							
講義の目的	交通体系の整備が近代社会の形成にどのような影響を与えたのかについて、交通機関や輸送手段毎に紹介する。そして、交通体系の歴史的系譜を学習することによって、現代社会の成り立ちについても深く理解できるようになることを目的とする。										
到達目標	交通体系の歴史を理解することによって、現代の交通に関するさまざまな問題に対して関心を持ち、自分の意見を持つことができる。										
講義内容	交通体系の整備は、旅客や貨物をより高速に、より遠方に輸送することを可能とした。それは地域や国といった枠組みをこえて、国際関係にも大きな影響を与えてきた。現代の交通問題に直結する内容を扱うため、対象時期は近現代(19～20 世紀)が中心となるが、必要に応じて古代・中世・近世の交通体系も扱う。対象地域は日本を中心としつつ、海外の事例もとりあげる。										
講義スケジュール				タイトル		内容					
		第 1 講		導入		本講義の概要、交通史研究の意義					
	第 2 講		水運と船舶①		水上交通の起源と役割（近代以前）						
	第 3 講		水運と船舶②		蒸気機関の登場と蒸気船の開発						
	第 4 講		水運と船舶③		旅客輸送の盛衰、貨物輸送の台頭						
	第 5 講		道路と自動車①		陸上交通の起源と役割（近代以前）						
	第 6 講		道路と自動車②		内燃機関の開発と自動車の誕生						
	第 7 講		道路と自動車③		自動車社会の到来						
	第 8 講		空と飛行機①		「空を飛ぶ」という欲求を具現化する技術開発						
	第 9 講		空と飛行機②		航空産業と軍事利用						
	第10講		空と飛行機③		民間航空の発達						
	第11講		交通をめぐる諸問題①		地球環境への負の影響						
	第12講		交通をめぐる諸問題②		過酷になりつつある自然災害との闘い						
	第13講		交通をめぐる諸問題③		都市への集中、地方の過疎化						
	第14講		交通をめぐる諸問題④		社会的少数者への差別的慣行						
	第15講		まとめ		本講義で学習してきたことのおさらい						
指導方法		講義はレジュメと映像資料を主に用い、交通と社会の関係性について紹介する。毎回、レジュメや映像資料を踏まえたリアクションペーパー記入などの課題を課す予定である。									
事前学習		授業前の事前学習として、各回のテキスト該当ページを一読し、未習の用語等について明らかにし、課題をもって授業に臨むことが必要である。1 時間 30 分程度の学習時間が目安である。									
事後学習		授業後の事後学習として、授業時に学習した以外の事例について参考文献を調べ、自分で考察をまとめることにより、授業で学んだ知識が定着し、理解を深めることができる。1 時間 30 分程度の学習時間が目安である。									
成績評価方法		本試験（40%）、小テスト（40%）、毎回のリアクションペーパー（20%）。									
課題（試験・レポート）に対するフィードバックの方法				毎回の講義の冒頭でリアクションペーパーに対する返答をし、試験時には解答とその解説をする。							
テキスト		特に 1 冊を指定する事はしない。必要な資料については、各回で随時配布する。									
参考文献		国際交通安全学会編『「交通」が結ぶ文明と文化:歴史に学び、未来を語る』技報堂出版、2006 年。その他、講義内で適宜提示する。									
実務家教員による授業				教 員 経 歴							
特記事項											

ナンバリング		科目名		サブタイトル	担当教員	配当年学期	単位数
222BT16		鉄道史		日米英3ヶ国の鉄道の歴史	宗像 俊輔	2 年次後期	2
科目区分	専 門	キーワード		政治、社会、外交、労働、環境			
ディプロマポリシーとの対応			2. 交通産業および関連分野での基礎能力（技術・理論）を有し、関連分野で活躍可能な能力				
カリキュラムポリシーとの対応			1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける 2. 交通産業および関連分野で活躍するための基礎能力（技術・理論）を身につける				
事前に受講するとよい科目			交通概論、鉄道基礎、鉄道工学、鉄道数学、交通英語入門、鉄道システム論				
オフィスアワー			月曜日・火曜日・土曜日（要確認）				
教員への連絡方法			s.munakata@toko.hosho.ac.jp				
講義の目的	我々が普段利用する鉄道がどのように誕生し、いかにして陸上交通の覇者となりえたのか。なぜ一度衰退した鉄道が再び脚光を浴びつつあるのにもかかわらず、完全な復権への道が遠いのか。本講義ではこのことを、イギリス、アメリカ、日本の鉄道史を概観し、3カ国の共通点や相違点から、問題の核心に迫る。						
到達目標	鉄道の歴史を理解し、近代以降の鉄道交通と社会の関係や、鉄道を中心とした交通体系が抱える様々な課題について、自らの意見を持つことができる。						
講義内容	本講義ではイギリス、アメリカ、日本の3カ国を事例とし、鉄道の誕生と発展を可能にした背景を、政治的、経済的、社会的背景から読み解く。また、鉄道が各国の文化や慣習にいかなる影響を与えたかについても紹介する。						
講義スケジュール		タイトル		内容			
	第1講	導入		本講義の概要、鉄道史の意義、基本情報の整理			
	第2講	イギリス鉄道史①		「蒸気機関車」の登場			
	第3講	イギリス鉄道史②		公共交通機関としての「鉄道」への昇華			
	第4講	アメリカ鉄道史①		19世紀アメリカの国内政策と鉄道敷設			
	第5講	アメリカ鉄道史②		アメリカの領土的拡大が促した「大陸横断鉄道」			
	第6講	アメリカ鉄道史③		「鉄道王」たちの横暴と連邦政府の規制強化			
	第7講	日本鉄道史①		新橋―横浜間の開業を可能にした明治期日本の鉄道への期待			
	第8講	日本鉄道史②		「鉄道熱」の時代から鉄道国有法制定へ			
	第9講	イギリス鉄道史③		「ビッグフォー」への集約と近代化			
	第10講	日米英鉄道史①		労働環境改善への終わりなき闘い			
	第11講	日米英鉄道史②		女性職員、女性利用者に対する差別			
	第12講	日米英鉄道史③		植民地経営の中核に位置付けられた鉄道			
	第13講	日米英鉄道史④		国有化の異なるアプローチとその功罪			
	第14講	日米英鉄道史⑤		民営化がもたらしたもの			
	第15講	総括		「交通正義」という新たなトレンド			
指導方法	パワーポイントや映像資料を用いて、講義を展開する。毎回の講義ではリアクションペーパーの記入と提出を求めるとともに、理解度確認テストも実施しながら、内容の定着を図る。						
事前学習	授業前の事前学習として、各回のテキスト該当ページを一読し、未習の用語等について明らかにし、課題をもって授業に臨むことが必要である。1時間30分程度の学習時間が目安である。						
事後学習	授業後の事後学習として、授業時に学習した以外の事例について参考文献を調べ、自分で考察をまとめることにより、授業で学んだ知識が定着し、理解を深めることができる。1時間30分程度の学習時間が目安である。						
成績評価方法	平常点（リアクションペーパー、態度など）・・・20%、各回の理解度確認テスト・・・30%、本試験（筆記試験）・・・50%						
課題(試験・レポート)に対するフィードバックの方法	毎回の講義の冒頭でリアクションペーパーに対する返答をし、試験時には解答とその解説をする。						
テキスト	必要な資料は、講義内容に合わせ配布する。						
参考文献	代表的なものとして、湯沢威他『近代ヨーロッパの探求⑭ 鉄道』ミネルヴァ書房、2012年。必要に応じて、講義時に紹介する。						
実務家教員による授業		教 員 経 歴					
特記事項							

ナンバリング		科目名		サブタイトル	担当教員	配当年学期	単位数
212BT17		航空論		航空・空港政策の背景と内容を理解する	中村 知誠	2 年次前期	2
科目区分	専 門	キーワード		航空規制緩和、シカゴ・バミューダ体制、オープンスカイ、LCC			
ディプロマポリシーとの対応			2. 交通産業および関連分野での基礎能力（技術・理論）を有し、関連分野で活躍可能な能力				
カリキュラムポリシーとの対応			1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける 2. 交通産業および関連分野で活躍するための基礎能力（技術・理論）を身につける				
事前に受講するとよい科目			交通概論、鉄道基礎、鉄道工学、鉄道数学、交通英語入門				
オフィスアワー			授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。				
教員への連絡方法			教員の短大メールアドレス				
講義の目的	グローバル化が進化した今日、航空は旅客・貨物輸送に欠かせない存在といえるでしょう。本講義の目的は、①航空や空港の役割や機能を理解すること、②航空・空港政策が変化してきた背景と経済的な意味を考察できるようになることです。経済学や経営学などの知識があるとより理解が深まります。なお、航空物流については、物的流通論の講義で詳しく紹介します。						
	到達目標						
到達目標		本講義では、①航空や空港にかかわる基礎的知識を習得すること、②習得した知識をもとに航空・空港政策について説明できるようにすること、③航空・空港分野での環境対策などといったより大きい課題を分析・考察できるようにすることを目標とします。					
講義内容		本講義では、経済学や経営学、会計学の基礎的な理論を使用し、航空・空港政策について体系的に学習します。第1 講から第10 講では航空政策を、第11 講から第15 講では空港政策を学びます。航空政策の講義では主に、日米の航空規制緩和や国際航空の制度的な枠組み、航空会社の費用特性などに焦点を当てて紹介します。空港政策の講義では、空港の収入・費用構造や複数空港地域での空港の機能分担、地方空港の現状などを紹介します。					
講義スケジュール		タイトル		内容			
	第1 講	イントロダクション		航空輸送産業の特質と動向			
	第2 講	米国の航空規制緩和と政策		米国の航空規制緩和と政策の歴史的・理論的背景			
	第3 講	日本の航空規制緩和と政策		わが国の航空規制緩和と政策の歴史的・理論的背景			
	第4 講	国際航空の制度的枠組み		国際航空の制度的枠組み：シカゴ会議と多国間協定			
	第5 講	国際航空での規制と競争		2 国間協定とシカゴ・バミューダ体制			
	第6 講	国際航空での規制緩和		オープンスカイ政策や EU の航空政策の仕組み			
	第7 講	航空サービスの費用		航空サービスに関わる費用とその経済的特性			
	第8 講	航空需要と観光		航空需要の経済的分析：航空需要に与える運賃や所得の影響			
	第9 講	LCC のビジネスモデル		LCC の経営戦略とサービスの特性を学ぶ			
	第10 講	航空企業のマーケティング		コードシェアやアライアンスの仕組みと導入の背景			
	第11 講	日本の空港制度と空港政策		空港整備の制度・空港運営の沿革と現状			
	第12 講	空港経営		空港の収入・費用構造と空港の所有・運営形態			
	第13 講	複数空港地域と空港経営		複数空港地域（MAR）における空港の機能分担			
	第14 講	地方空港の経営改革		わが国の地方空港の現状と経営改革に向けた動き			
	第15 講	航空・空港を見る視点		これからの航空・空港分野における重要な視点を学ぶ			
指導方法		必要に応じて、要点を整理したプリントを配布します。授業はプリントとパワーポイントを併用した講義形式で進めます。講義内で適宜、小テストもしくは小レポートを実施します。					
事前学習		授業前の事前学習として、各回のテキスト該当ページを一読し、未習の用語等について明らかにし、課題をもって授業に臨むことが必要である。1 時間 30 分程度の学習時間が目安である。					
事後学習		授業後の事後学習として、授業時に学習した以外の事例について参考文献を調べ、自分で考察をまとめることにより、授業で学んだ知識が定着し、理解を深めることができる。1 時間 30 分程度の学習時間が目安である。					
成績評価方法		本試験（筆記試験）70%、平常点（小テストおよび小レポート）30%					
課題（試験・レポート）に対するフィードバックの方法		小テスト・レポート実施後の授業の冒頭で解説する。					
テキスト		高橋望・横見宗樹『エアライン/エアポートビジネス入門(第二版)』法律文化社、2016 年。					
参考文献		関西空港調査会監修『航空・空港政策の展望-アフターコロナを見据えて-』中央経済社、2021 年。 村上英樹・加藤一誠・高橋望・榊原胖夫(編著)『航空の経済学』ミネルヴァ書房、2006 年。					
実務家教員による授業			教 員 経 歴				
特記事項							

ナンバリング		科目名		サブタイトル	担当教員	配当年学期	単位数
222BT18		海運論		交通市場での海運の役割	後藤 洋政	2 年次後期	2
科目区分	専 門	キーワード		海上輸送、内航海運、外航海運、定期船、不定期船、港湾			
ディプロマポリシーとの対応			2. 交通産業および関連分野での基礎能力（技術・理論）を有し、関連分野で活躍可能な能力				
カリキュラムポリシーとの対応			1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける 2. 交通産業および関連分野で活躍するための基礎能力（技術・理論）を身につける				
事前に受講するとよい科目			交通概論、鉄道基礎、鉄道工学、鉄道数学、交通英語入門、交通英語、交通史、交通政策論				
オフィスアワー			授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。				
教員への連絡方法			hgoto@toko.hosho.ac.jp				
講義の目的	本講義では、国内・国際交通市場における海運事業に関する基礎的知識として、海運事業の仕組み、海運事業の現状と課題、わが国の経済社会における海運事業の役割について理解することを目的とします。さらに、交通市場全体が抱える問題点を整理・理解したうえで、今後の海運事業のあり方について考察する能力を身につけることを目的とします。						
到達目標	日頃、身近に接することが少ない海運事業ですが、わが国の経済活動における海運事業の役割はとても重要です。そこで、私たちの生活の中での海運事業の位置付けを認識すること、海運事業の現状や課題を理解することが到達目標です。						
講義内容	海運（海運事業）といっても、内航と外航、旅客輸送と貨物輸送、定期と不定期といった分類ができます。本講義では、内航海運（国内での輸送）と外航海運（国をまたいだ輸送）における貨物輸送に重点を置き、海運の果たす役割、海運事業の仕組みや現状について事例を交えて説明します。また、海運を支える港湾の仕組み、制度や政策について基本的な事柄を説明します。						
講義スケジュール		タイトル			内容		
	第1講	オリエンテーション			海運論で学ぶことや講義の進め方		
	第2講	イントロダクション			船舶と海運の基礎事項の整理、海運事業について		
	第3講	船の種類と役割			海運で使われる船の種類と構造		
	第4講	内航海運の現状			内航海運の動向や仕組み		
	第5講	内航海運の政策			内航海運における制度や規制改革		
	第6講	モーダルシフト			環境問題と内航海運の役割		
	第7講	内航海運の課題と今後①			内航海運が抱える課題		
	第8講	内航海運の課題と今後②			内航海運業のまとめと今後の見通し		
	第9講	外航海運の現状			外航海運の動向や仕組み		
	第10講	定期船事業			外航海運における定期船事業の動向や仕組み		
	第11講	不定期船事業			外航海運における不定期船事業の動向や仕組み		
	第12講	外航海運の課題と今後			外航海運が抱える課題と今後の見通し		
	第13講	港湾の現状			港湾の分類、制度、運営、政策		
	第14講	港湾の課題と今後			わが国の港湾の課題と今後の見通し		
	第15講	まとめ			第1 講から第 14 講で学習した事項の整理・復習		
指導方法	スライド、レジュメ、参考資料等を活用しながら講義を進めます。配布する資料は、概要や要旨を記載したものであり、講義を受けながらノートを作成する形式とします。						
事前学習	講義の際に、次回の内容に関する参考文献や動画等を紹介しますので、予め資料・動画に目を通し、海運事業についての予備知識を持って講義に臨んで下さい。1 時間 30 分程度の学習時間が目安である。						
事後学習	毎回の講義内容をノート等にまとめ、他の交通機関との比較や疑問点、用語を調べる癖を付けて下さい。また、講義後に課題を出しますので（不定期）、課題に取り組み、内容を確実に習得できるようにして下さい。1 時間 30 分程度の学習時間が目安である。						
成績評価方法	「本試験（筆記試験）」70%、「平常点（授業内課題）」30%で評価します。						
課題（試験・レポート）に対するフィードバックの方法		講義内で解説する。					
テキスト	池田良穂『基礎から学ぶ海運と港湾』海文堂、2017 年。						
参考文献	森隆行(2023)『新訂 外航海運概論』成山堂、畑本郁彦・古莊雅生(2021)『内航海運概論』成山堂 国土交通省海事局「海事レポート 2024」、日本海事広報協会「SHIPPING NOW 2024-2025」						
実務家教員による授業		教 員	経 歴				
特記事項	自動車・鉄道・航空での貨物輸送について調べておくことが望ましい。ただし、履修条件ではない。						

ナンバリング		科目名		サブタイトル	担当教員	配当年学期	単位数
122BT19		鉄道基礎 (2限 / 3限)		鉄道の全体を幅広く学ぶ	鷲田 侑紀	1 年次後期	2
科目区分	専 門	キーワード		鉄道の安全 法令 車両の仕組み 線路の仕組み 運転の心得			
ディプロマポリシーとの対応			2. 交通産業および関連分野での基礎能力（技術・理論）を有し、関連分野で活躍可能な能力				
カリキュラムポリシーとの対応			1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける 2. 交通産業および関連分野で活躍するための基礎能力（技術・理論）を身につける				
事前に受講するとい科目			交通概論				
オフィスアワー			授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。				
教員への連絡方法			教員の短大メールアドレス				
講義の目的	鉄道が日々事故なく安全に運行できるのはどうしてなのか、その仕組みや体系について考える。また、鉄道に従事する人はどのような素養や心得が必要なのかについても考えていく。鉄道に関する知識の習得を目指すとともに、仕組みやルールや手順について、どうしてそのようになっているのかという問いを立て、自ら考える力をつけることを目的とする。						
	鉄道の仕組みやルール、手順を幅広く学ぶことを通じて、物事に対する考察力を養い、社会人に必要な課題解決能力を身につけることを目標とする。併せて、鉄道に関して、専門的に学ぶ上での基礎的な知識を身につけることを目標とする。						
講義内容	鉄道についての知識がないこと前提に授業を行う（予備知識は不要）。鉄道に関する法令、車両、施設、運転ルールや従事する係員を含めた鉄道全体の基本的な仕組みについて幅広く学習する。まずは教室での授業により知識を習得し、その後グループごとの実習や討議を行うことで、より深い理解を図る。なお、施設を使用してグループごとの実習を行う予定である。						
講義スケジュール		タイトル			内容		
	第 1 講	オリエンテーション			講義の内容や進め方、成績評価の説明、鉄道とは何か		
	第 2 講	＜概説＞鉄道の性質と法令			鉄道事業の特性と法令の関係性、鉄道六法		
	第 3 講	＜車両＞車両構造の概説			動力方式の違い、台車と車体構造、車両限界		
	第 4 講	＜車両＞主回路と制御回路			主回路の構成、集電装置、主電動機、制御方式の種類と構成		
	第 5 講	＜車両＞ブレーキと保安装置			ブレーキ方式の種類と仕組み、ATS 装置		
	第 6 講	＜施設＞線路と軌道			線路の構造、軌道や分岐器の仕組み、路盤、トンネル		
	第 7 講	＜営業＞きっぷと旅客制度			運送契約とは、運賃料金のルール、振替輸送の仕組み		
	第 8 講	＜運転＞運転法規と輸送計画の概説			列車と車両、閉そくとは、代用閉そく式、ダイヤグラム		
	第 9 講	＜運転＞信号と合図			鉄道信号の種類、現示方式、入換合図		
	第10講	＜運転＞列車防護と併発事故防止			事故発生時の対応、列車防護の方法		
	第11講	＜施設＞電力設備と信号保安設備			電車線路の構造、高圧電力と低圧電力、軌道回路、連動装置		
	第12講	＜運転＞運転免許と乗務員			乗務員の資質、教育訓練、動力車操縦者運転免許に関わる規則		
	第13講	＜概説＞重大事故から学ぶ安全の基本			過去の重大事故の事例研究、事故防止対策		
	第14講	＜概説＞災害対応と鉄道係員の使命			地震、津波を想定した安全対策、乗務員の異常時対応		
	第15講	まとめ			次世代の鉄道事業のあり方について考える		
指導方法		講義とグループ(4～6 人)で課題解決を行うグループワークも取り入れて、授業を進めていく。授業回ごとに課題またはレポート(報告書)を課す。					
事前学習		授業前の事前学習として、各回のテキスト該当ページを一読し、未習の用語等について明らかにし、課題をもって授業に臨むことが必要である。1 時間 30 分程度の学習時間が目安である。					
事後学習		授業後の事後学習として、授業時に学習した以外の事例について参考文献を調べ、自分で考察をまとめることにより、授業で学んだ知識が定着し、理解を深めることができる。1 時間 30 分程度の学習時間が目安である。					
成績評価方法		本試験(筆記試験)：30%、平常点(授業内課題)：70%					
課題(試験・レポート)に対するフィードバックの方法		レポートの解説および本試験の正答は Classroom に掲載する。					
テキスト		秋山芳弘監修、『図解入門 よくわかる最新鉄道の技術と仕組み』、秀和システム、2020 年					
参考文献		野元浩著、『定本 電車基礎講座』、交通新聞社、2022 年 中村英夫編著、『鉄道安全解体新書』、オーム社、2021 年					
実務家教員による授業		○	教 員 経 歴	2017 年より現在まで大手鉄道会社に勤務。駅係員、車掌、運転士等を経験。			
特記事項		施設を使った実習を予定しているため、履修者数に制限がある。第 1 講に欠席した場合は履修できない。					

ナンバリング		科目名		サブタイトル	担当教員	配当年学期	単位数
122BT20		鉄道工学		設備や車両の基本と物理との関係	城本 高輝	1 年次後期	2
科目区分	専 門	キーワード	物理、摩擦力、慣性力、エネルギー変換、鉄道施設				
ディプロマポリシーとの対応			2. 交通産業および関連分野での基礎能力（技術・理論）を有し、関連分野で活躍可能な能力				
カリキュラムポリシーとの対応			1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける 2. 交通産業および関連分野で活躍するための基礎能力（技術・理論）を身につける				
事前に受講するとよい科目			交通概論、身の回りの物理				
オフィスアワー			授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。				
教員への連絡方法			教員の短大メールアドレス				
講義の目的	列車が定時・安全運行できるのは乗務員の力だけではありません。本授業では、技術的な観点で鉄道事業にスポットをあてます。鉄道の設備や車両の基本的なしくみについて、自分自身で考えながら理解していきます。						
到達目標	鉄道技術に関連する学習を通して、物理や数学を学び直すことで、2 年次の鉄道専門科目の基礎力を養います。また、基礎的な工学の見識を深めることで、様々な専門書を自主的に理解する能力を身につけます。						
講義内容	鉄道の設備や車両については、物理や数学の知識があると理解が一層深まります。設備や車両に関する構造の専門書、図面の読み取りなどについて、学生が自主的に取り組める授業を展開します。鉄道の知識を活用した学生によるプレゼンテーションにも取り組みます。新型コロナウイルス感染拡大が鉄道事業に与えた影響についても解説します。						
講義スケジュール		タイトル	内容				
	第 1 講	ガイダンス	ガイダンス、鉄道事業における様々なしくみ				
	第 2 講	車両の基本 1	蒸気機関車のしくみ				
	第 3 講	車両の基本 2	抵抗制御式電車のしくみ				
	第 4 講	車両の基本 3	交流電化と VVVF 電車				
	第 5 講	車両の基本 4	気動車のしくみ				
	第 6 講	車両の制御 1	鉄道車両の制御				
	第 7 講	車両の制御 2	鉄道車両の走行抵抗				
	第 8 講	演習 1	プレゼンテーション 1				
	第 9 講	鉄道施設の基本 1	曲線の線路				
	第10講	鉄道施設の基本 2	登りと下り				
	第11講	鉄道施設の基本 3	列車走行と信号				
	第12講	鉄道施設の基本 4	橋梁とトンネル				
	第13講	鉄道施設の基本 5	切符と自動改札のしくみ				
	第14講	演習 2	プレゼンテーション 2				
第15講	車両と鉄道施設のまとめ	まとめ、総復習					
指導方法		鉄道事業での実務経験を活用した技術的な内容の講義を実施します。また、授業内容を通して、日常生活で目にする鉄道の設備や車両について多面的な理解ができるよう指導を行います。					
事前学習		授業前の事前学習として、各回のテキスト該当ページを一読し、未習の用語等について明らかにし、課題をもって授業に臨むことが必要である。1 時間 30 分程度の学習時間が目安である。					
事後学習		授業後の事後学習として、授業時に学習した以外の事例について参考文献を調べ、自分で考察をまとめることにより、授業で学んだ知識が定着し、理解を深めることができる。1 時間 30 分程度の学習時間が目安である。					
成績評価方法		本試験（筆記試験）：50%、平常点（プレゼンテーション等）：50%					
課題（試験・レポート）に対するフィードバックの方法		授業の冒頭で解説をする。					
テキスト		半田利弘、『物理で広がる鉄道の魅力』、丸善出版					
参考文献		『鉄道のしくみと走らせ方』、かんき出版					
実務家教員による授業		○	教 員 経 歴	役所・鉄道会社等に勤務・出向経験有り。			
特記事項		実務家としての鉄道業界での経験を、授業で数多くお話しします。					

ナンバリング		科目名		サブタイトル	担当教員	配当年学期	単位数
212BT21		物的流通論		社会を支える物流の仕組みを考える	中村 知誠	2 年次前期	2
科目区分	専 門	キーワード		総合物流施策大綱、サプライチェーン・マネジメント、物流標準化、ラストマイル輸送、グリーン物流			
ディプロマポリシーとの対応			2. 交通産業および関連分野での基礎能力（技術・理論）を有し、関連分野で活躍可能な能力				
カリキュラムポリシーとの対応			1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける 2. 交通産業および関連分野で活躍するための基礎能力（技術・理論）を身につける				
事前に受講するとよい科目			交通概論、鉄道基礎、鉄道工学、鉄道数学、交通英語入門				
オフィスアワー			授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。				
教員への連絡方法			教員の短大メールアドレス				
講義の目的	物的流通(物流)は生産システムと消費システムの過程で流動するモノ(商品等)を管理する活動であり、私たちの生活にも深く関わっています。本講義では、物流の基本的概念を総合的・体系的に学習し、物流の現状を理解することを目的とします。また、近年の社会課題と物流の関わりについても学習します。物的流通論は、経済学や経営学、商学などの知識があるとより理解が深まります。						
到達目標	本講義では、①物流にかかわる基礎的な知識を習得すること、②習得した知識をもとに企業における実際の物流や物流システムについて説明できるようにすること、③物流の視点から環境問題や災害、労働力不足といったより大きい課題を分析・考察できるようにすることを目標とします。						
講義内容	本講義では、経済学や経営学、マーケティングの基礎的な理論をもとに物流の役割と重要性について体系的に学習します。前半では、物流概念の変遷、物流の基本的な機能、物流管理、企業の業種に応じた物流などを扱います。後半では、環境や災害、労働力不足という問題を物流の観点から学びます。第 13 講と第 14 講の事例研究では、授業中に学習した様々な概念を用いて実際の企業の経営戦略と物流システム・物流戦略の関わりを説明します。						
講義スケジュール		タイトル			内容		
	第 1 講	物的流通とはなにか			物的流通やロジスティクスの基礎概念の整理		
	第 2 講	物流の機能			物流の 6 大機能と物流の主体		
	第 3 講	経済社会を支える物流業①			輸送手段としてのトラック輸送・海上輸送の役割		
	第 4 講	経済社会を支える物流業②			輸送手段としての鉄道輸送・航空輸送の役割と倉庫業の役割		
	第 5 講	物流を管理する			物流コスト管理や在庫管理の伝統的手法		
	第 6 講	消費者ニーズ始点の物流			小売業者主導型の物流の仕組み		
	第 7 講	生産活動を支える物流			生産活動を支えるメーカーの物流の仕組み		
	第 8 講	ネット通販の進展と物流			インターネット通販の歴史と仕組み		
	第 9 講	宅配便サービスの仕組み			宅配便サービスの歴史と仕組み、ラストマイル輸送		
	第10講	労働力不足問題と物流			物流業界での労働不足の背景と労働不足解消に向けた対策		
	第11講	環境問題と物流			グリーン物流の取り組みや静脈物流の仕組み		
	第12講	災害時対応の物流			リスクマネジメントと事業継続計画(BCP)		
	第13講	経営戦略と物流：事例①			アパレル業界における経営戦略と物流戦略：SPA 企業の事例		
	第14講	経営戦略と物流：事例②			飲食業における経営戦略と物流戦略		
第15講	交通インフラ整備と物流			交通インフラ整備が物流に与える影響			
指導方法		毎回、授業前に要点のみを整理したプリントを配布します。授業はプリントとパワーポイントを併用した講義形式で進めます。講義内で適宜、小テストもしくは小レポートを実施します。					
事前学習		授業前の事前学習として、各回のテキスト該当ページを一読し、未習の用語等について明らかにし、課題をもって授業に臨むことが必要である。1 時間 30 分程度の学習時間が目安である。					
事後学習		授業後の事後学習として、授業時に学習した以外の事例について参考文献を調べ、自分で考察をまとめることにより、授業で学んだ知識が定着し、理解を深めることができる。1 時間 30 分程度の学習時間が目安である。					
成績評価方法		本試験（筆記試験）70%、平常点（小テストおよび小レポート）30%					
課題(試験・レポート)に対するフィードバックの方法			小テスト・レポート実施後の授業の冒頭で解説する。				
テキスト		齊藤実・矢野裕児・林克彦『物流論（第 3 版）』中央経済社、2025 年。					
参考文献		山本裕、男澤智治(編著)『物流を学ぶ』中央経済社、2020 年。山縣宣彦・加藤一誠(編)『「みなと」のインフラ学』成山堂書店。一橋大学商学部経営学部門『経営学概論』税務経理協会、2009 年。					
実務家教員による授業			教 員 経 歴				
特記事項							

ナンバリング		科目名		サブタイトル	担当教員	配当年学期	単位数
212BT22		鉄道プログラミング		ハードウェア制御を通した プログラミングの習得	小宮 全	2 年次前期	2
科目区分	専 門	キーワード		Arduino、プログラミング			
ディプロマポリシーとの対応			2. 交通産業および関連分野での基礎能力（技術・理論）を有し、関連分野で活躍可能な能力				
カリキュラムポリシーとの対応			1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける 3. 情報化社会に対応するための IT スキルの基本処理能力を身につける				
事前に受講するとよい科目			プログラミング入門、情報科学概論				
オフィスアワー			毎週水曜日 18:10-19:40				
教員への連絡方法			zen.komiya@toko.hosho.ac.jp、Google Chat、Google Classroom				
講義の目的	鉄道模型や実際の鉄道システムでは様々なハードウェアが利用されており、それらを制御するためにはプログラミング技術が必須である。ハードウェア制御を通して、プログラミングの考え方や C 言語に似た Arduino 言語の基本文法を習得することが本講義の目的である。						
到達目標	多くのプログラミング言語の基礎となっている構造化プログラミング（順次、反復、分岐）を習得し、プログラムを読むことや簡単なプログラムを書くことができるような人材になることが本講義の到達目標である。						
講義内容	Arduino ボード（電子回路）を実際に使用しながら授業を進める。講義の大きな流れは、パソコンと実験ボードを接続し、パソコン上でプログラムを書き、自作したプログラムを実験ボードにインストールする。この作業を通して実験ボード上の様々なデバイスを制御する方法を学習する。＊本講義では模型の製作はしない。						
講義スケジュール		タイトル			内容		
	第 1 講	ガイダンス			Arduino IDE をインストールし、LED を点滅させる		
	第 2 講	信号機の再現（1）			Arduino の基本的な使い方、LED の制御をする		
	第 3 講	信号機の再現（2）			五灯式、抑速現示を再現する		
	第 4 講	発車案内板の再現（1）			if,else if を理解する・CdS セルの使い方を理解する		
	第 5 講	発車案内板の再現（2）			OLED の使い方を理解する		
	第 6 講	車両検出と速度計算（3）			CdS セルを使って車両を検出する		
	第 7 講	車両検出と速度計算（4）			CdS セルを使って車両の平均速度を算出する		
	第 8 講	モータードライバの制御（1）			モータードライバの制御方法を理解する		
	第 9 講	モータードライバの制御（2）			車両を発進・停止・逆進させる		
	第10講	車両速度を制御する（1）			Arduino の関数を理解する		
	第11講	車両速度を制御する（2）			車両の速度を制御し、ゆっくり動作させる		
	第12講	車両速度を制御する（3）			オリジナルの発車・停車パターンを作成する		
	第13講	音の再現（1）			音声モジュールの使い方を理解する		
	第14講	音の再現（2）			CdS セルと音声を連動させる		
第15講	まとめ			オリジナルの路線を作成する			
指導方法		テキスト・授業のウェブページを利用して授業を進める。一人一台の Arduino UNO を使い、プログラミング実習を進める。					
事前学習		授業前の事前学習として、各回のテキスト該当ページを一読し、未習の用語等について明らかにし、課題をもって授業に臨むことが必要である。1 時間程度の学習時間が目安である。					
事後学習		授業後の事後学習として、授業時に学習した以外の事例について参考文献を調べ、自分で考察をまとめることにより、授業で学んだ知識が定着し、理解を深めることができる。2 時間程度の学習時間が目安である。					
成績評価方法		本試験（最終課題動画提出）：30%、平常点：70%[課題（授業内外で作成した提出物）]。1 つでも課題を提出しなかった場合は、成績は”X”になる。					
課題（試験・レポート）に対するフィードバックの方法			授業の最初に、前回の課題の解説を実施する。				
テキスト		特になし					
参考文献		特になし					
実務家教員による授業		×	教 員 経 歴				
特記事項							

ナンバリング		科目名		サブタイトル	担当教員	配当年学期	単位数
222BT23		鉄道経済学		経済学の視点から鉄道を考える	遠藤 俊太郎	2 年次後期	2
科目区分	専 門	キーワード		鉄道経営、鉄道事業の費用・収益構造、経営形態、事業計画			
ディプロマポリシーとの対応			2. 交通産業および関連分野での基礎能力（技術・理論）を有し、関連分野で活躍可能な能力				
カリキュラムポリシーとの対応			1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける 2. 交通産業および関連分野で活躍するための基礎能力（技術・理論）を身につける				
事前に受講するとよい科目			経済学 A/B、交通経済学				
オフィスアワー			授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。				
教員への連絡方法			教員の短大メールアドレス				
講義の目的	我が国の鉄道は世界的にみても稀な独立採算原則の下で収益事業として経営・維持されている。一方、人口構造や交通環境の変化、施設・設備の老朽化に伴う競争力の低下により、鉄道として経営を続けることが困難となる例も多くみられ、そのあり方が議論となっている。本科目では、鉄道事業の特性や課題について、交通経済学の基礎的な理論とあわせ、各地の事例を交え体系的に把握・理解する。						
	鉄道事業の構造やその事業環境を踏まえ、今後の「鉄道のあり方」について、受講生が現実的な視点から論理的に私見を述べられるようになることを目標とする。						
講義内容	我が国における鉄道の事業構造と特性、政策的位置付けについてその歴史や背景を含めて説明するとともに、事業環境の変化に対応した今後の鉄道事業経営の課題とその解決策等について、関連する基本的な経済学の考え方や事例を交えて現実的な観点から整理する。あわせて、国内外における鉄道改革の概要や諸外国における事例にも触れる。						
講義スケジュール		タイトル			内容		
	第 1 講	オリエンテーション			講義の内容や進め方、成績評価、留意点の説明		
	第 2 講	企業経営の基礎			企業の費用構造と収益構造、交通事業者のポートフォリオ		
	第 3 講	鉄道事業の特性			装置型産業、鉄道事業の費用構造と特性		
	第 4 講	統計から読む旅客輸送			日本における鉄道旅客輸送の推移とその背景		
	第 5 講	統計から読む貨物輸送			日本における貨物鉄道輸送の推移とその背景		
	第 6 講	運賃政策			上限認可運賃と協議運賃－運賃制度の概要と課題		
	第 7 講	鉄道改革－日本			国鉄の経営問題、国鉄再建・分割民営化とその後の課題		
	第 8 講	鉄道改革－海外			欧米主要国の鉄道改革		
	第 9 講	鉄道事業の経営形態			国営・公営・民営、上下分離、オープンアクセス		
	第10講	鉄道事業の現状と課題			人口構造・交通環境の変化と鉄道事業の持続可能性		
	第11講	交通政策と鉄道事業			交通政策における鉄道の位置づけ、事業法・補助制度		
	第12講	鉄道活性化の取り組み(1)			JR 各社の取り組みと事業計画		
	第13講	鉄道活性化の取り組み(2)			大手民鉄・都市鉄道の取組		
	第14講	鉄道活性化の取り組み(3)			地方鉄道事業者および沿線地域の取組		
	第15講	まとめ			将来に向けた鉄道経営の課題		
指導方法		スライドを活用しながら講義を進めます。小テストを実施するほか、講義内で発表等の機会を設け、受講者を交えたディスカッションを通じて理解を深めます。					
事前学習		授業前の事前学習として、次回講義のテーマについて自ら調べ、未習の用語等について明らかにし、課題をもって授業に臨むことが必要である。1 時間程度の学習時間が目安である。					
事後学習		授業後の事後学習として、授業時に学習した内容に関連する事例について調べ、自らの考えをまとめることにより、授業で学んだ知識が定着し、理解を深めることができる。2 時間程度の学習時間が目安である。					
成績評価方法		平常点（小テスト、発表等）50%、本試験（筆記試験）50%					
課題(試験・レポート)に対するフィードバックの方法		必要に応じ、個別のコメント返信や講義内での紹介・コメント等によりフィードバックする。					
テキスト		テキストは指定しない。各講義の内容にあわせて資料を作成し配布する。					
参考文献		講義内で随時紹介する。					
実務家教員による授業		○	教 員 経 歴	総合経済団体にてまちづくりや産業政策等に関する実務を経験したのち、ドイツにて交通政策の研究に従事。現職は公共交通関係のシンクタンク研究員。			
特記事項		実務経験を活かし、理論と現実の両面からアプローチします。積極的な参加を期待します。					

ナンバリング		科目名		サブタイトル	担当教員	配当年学期	単位数
212BT24		交通政策論		国・自治体の政策、 交通事業者の施策に学ぶ	武藤 雅威	2 年次前期	2
科目区分	専 門	キーワード		規制緩和、上下分離、整備新幹線、モーダルシフト、自動運転			
ディプロマポリシーとの対応			2. 交通産業および関連分野での基礎能力（技術・理論）を有し、関連分野で活躍可能な能力				
カリキュラムポリシーとの対応			1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける 2. 交通産業および関連分野で活躍するための基礎能力（技術・理論）を身につける				
事前に受講するとよい科目			交通概論、鉄道基礎、鉄道工学、鉄道数学、交通英語入門				
オフィスアワー			授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。				
教員への連絡方法			教員の短大メールアドレス				
講義の目的	交通政策とは、国（国土交通省等）や自治体（都道府県、市区町村）が交通を取り巻く問題解決のためや、より良い方向へ導くために行う取り組み（交通に関連する法令整備や制度設計等）のことです。これらの政策は人口減少や環境問題、先端技術の開発等、社会情勢を反映しながら形成されていきます。本講義では、鉄道会社等の交通事業者が行う施策も交えて、その過程や発現する効果を学び、交通政策に関する基礎知識を習得することを目的とします。						
	到達目標						
本講義で取り上げる交通政策および交通事業者の施策が「どのような意味を持つのか、社会にどのような影響を及ぼすのか」について議論できることを目指します。さらに、日頃から交通に関するニュースや記事等に関心を持つようになり、交通時事問題についての理解を一層深めてほしいと願っています。							
講義内容							
講義では、それぞれの交通政策・施策が形成される背景となった社会情勢を踏まえ、最新の情報をもとに政策・施策の実例をわかりやすく解説します。特に、鉄道に関する政策・施策を多く取りあげます。学生の皆さんにはただ講義を聴くだけではなく、提示された課題から自らの考えをまとめる時間を与え、レポート作成やプレゼンテーションにつなげていく進め方とします。							
講義スケジュール		タイトル			内容		
	第 1 講	オリエンテーション			進め方と評価方法、交通政策の基本論		
	第 2 講	LRT、BRT の特徴と役割			なぜ今、LRT、BRT を整備するのか		
	第 3 講	都市鉄道計画			どのように鉄道新線が計画されるのか		
	第 4 講	都市鉄道整備支援の政策			都市鉄道等利便増進法、都市再開発と駅新設・改良		
	第 5 講	新幹線の開発と政策			新幹線開発の歴史と路線網の拡大、整備効果		
	第 6 講	リニアの技術開発と将来			リニア地下鉄、常電導・超電導リニアの特徴		
	第 7 講	貨物鉄道を取り巻く政策			鉄道貨物輸送の現状とモーダルシフトの促進		
	第 8 講	地方公共交通活性化策			持続可能な地方公共交通とするには		
	第 9 講	環境対策			世界と日本の環境政策、交通事業者の環境施策		
	第10講	安心・安全対策			鉄道事故防止策、自然災害に対する備え		
	第11講	先端技術との融合			自動車や鉄道の自動運転技術と実装への課題		
	第12講	沿線開発まちづくり			鉄道整備と沿線開発の意義、時代ごとの実例		
	第13講	日本の海外支援策			アジア諸国の鉄道整備に対する日本の支援		
	第14講	欧州の交通政策			インターオペラビリティ、上下分離政策等の特徴		
	第15講	ディスカッション			交通政策の問題について考えよう（グループワーク）		
指導方法		初回と最終回を除き、本日のテーマに関する講義を約 60 分を行います。残りの時間でミニレポート課題を提示し、レポート作成時間を設けた後、ディスカッション（発表と質疑応答）をします。					
事前学習		事前配布する講義用パワーポイント（PDF ファイル）にあらかじめ目を通しておき、内容を頭に入れて受講すれば、講義内容への理解が深まります。1 時間 30 分程度の学習時間が目安である。					
事後学習		事後学習として、講義中に作成したミニレポートの記述内容を振り返り、自分で新たな考察をまとめることにより、講義で学んだ知識が定着し、より理解が深まります。1 時間 30 分程度の学習時間が目安である。					
成績評価方法		本試験 50%（レポート）、平常点 50%（通常講義時のミニレポートとディスカッション参加 40%、第 15 講ディスカッション 10%）					
課題(試験・レポート)に対する フィードバックの方法		レポート提出と評価を Classroom で行います。優秀なミニレポートには平常点内で加点をします。					
テキスト		毎回、パワーポイントの PDF ファイルを Classroom で事前配布します。					
参考文献		数字でみる鉄道 2024（運輸総合研究所発行）					
実務家教員による授業			教 員 経 歴				
特記事項							

ナンバリング		科目名		サブタイトル	担当教員	配当年学期	単位数
222BT25		世界の鉄道研究		世界の鉄道はどのように発達し今日に至ったのか	櫻井 寛	2 年次後期	2
科目区分	専 門	キーワード		鉄道の発明、鉄道発祥の地、各国ゲージ、高速鉄道、登山鉄道			
ディプロマポリシーとの対応			2. 交通産業および関連分野での基礎能力（技術・理論）を有し、関連分野で活躍可能な能力				
カリキュラムポリシーとの対応			1. 交通の一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける 2. 交通産業および関連分野で活躍するための基礎能力（技術・理論）を身につける				
事前に受講するとよい科目			交通概論 A/B、鉄道基礎、鉄道数学、鉄道工学、鉄道安全論、鉄道システム論				
オフィスアワー			授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。				
教員への連絡方法			教員の短大メールアドレス				
講義の目的	鉄道は 1825 年にイギリスで実用化され今年には 200 周年の節目の年。今日、世界にはおよそ 140 ヶ国で鉄道が運行されているが、各国の国土、気象、歴史、文化、経済、宗教、国民性などの違いによって世界には多種多様な鉄道が存在する。各国の鉄道事情を研究することは、国際的な教養を高めることにも大いに役立つ。						
到達目標	鉄道の発明、発展に寄与した国と人物を理解する。ゲージ（軌間）の差違による各国の鉄道の歴史を理解する。高速鉄道を運行する現代の鉄道先進国を理解する。						
講義内容	講師がこれまでに世界 95 ヶ国の鉄道取材してきた画像を使用し、イギリスにおける鉄道の発明と発達史。日本に鉄道という文明をもたらした欧米諸国。一方、日本の鉄道技術が輸出されたアジア諸国、近年では欧米諸国への車両や技術輸出など、日本と綿密な関係にある国々の、鉄道の歴史、現状、文化、技術、システムなどを学び検証する。						
講義スケジュール		タイトル			内容		
	第 1 講	オリエンテーション			興味のある国、行ってみたい国、研究したい国ベスト 3		
	第 2 講	イギリス			鉄道発祥の国、ロコモーション号から HITACHI トレイン		
	第 3 講	アメリカ・カナダ			世界最大の鉄道網、世界最大級の貨物列車、大陸横断鉄道		
	第 4 講	ドイツ・オーストリア			電化、ディーゼル化の先進国、信用乗車方式、環境優先 I C E		
	第 5 講	フランス			最高速度 574.8 k m/h 世界最速の高速列車 T G V		
	第 6 講	イタリア			デザインで世界の鉄道をリード		
	第 7 講	スイス			鉄道王国、世界一の路線密度と列車密度、廃線ゼロ、立客ゼロ		
	第 8 講	中国・香港			疑問点の多い鉄道技術とコピーデザイン、香港の都市交通		
	第 9 講	韓国			フランス製の高速列車 K T X、在来線も標準軌		
	第10講	台湾			日本製の高速列車 700T 型、在来線は狭軌		
	第11講	ロシア・スペイン			広軌を採用した理由、世界最長のシベリア鉄道		
	第12講	オーストラリア			狭軌、標準軌、広軌、各州で異なるゲージ		
	第13講	南アフリカ・ニュージーランド			日本と同じ狭軌（1067 mm）を採用した理由		
	第14講	インド・東南アジア			広軌のインドと、1 mゲージの東南アジア		
第15講	まとめ			世界的高速鉄道			
指導方法		講師撮影の鉄道画像とテキスト、レジュメを用い講義形式で授業を進める。学生諸君による各自の「世界の鉄道研究」の成果を発表し討論する。					
事前学習		授業前の事前学習として、各回の参考文献該当ページを一読し、未習の用語等について明らかにし、課題をもって授業に臨むことが必要である。1 時間 30 分程度の学習時間が目安である。					
事後学習		授業後の事後学習として、授業時に学習した以外の事例について文献などを調べ、自分で考察をまとめることにより、授業で学んだ知識が定着し、理解を深めることができる。1 時間 30 分程度の学習時間が目安である。					
成績評価方法		本試験（筆記試験）50%、平常点（各自の研究成果発表など）50%で成績評価する。					
課題（試験・レポート）に対するフィードバックの方法			課題の講評は授業内で行う				
テキスト		毎回レジュメを配布					
参考文献		櫻井寛[2024]『列車で行こう！The Railway World』（世界文化社）					
実務家教員による授業			教 員 経 歴				
特記事項		日本地図はもちろん、世界地図も読みこなせるように！					

ナンバリング		科目名		サブタイトル	担当教員	配当年学期	単位数
122BT26		鉄道数学		鉄道科目の学習に必要な数学を身に付ける	小宮 全	1 年次後期	2
科目区分	専 門	キーワード		基礎数学、経済学に関する数学、鉄道系科目に必要な数学			
ディプロマポリシーとの対応			2. 交通産業および関連分野での基礎能力（技術・理論）を有し、関連分野で活躍可能な能力				
カリキュラムポリシーとの対応			1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける 2. 交通産業および関連分野で活躍するための基礎能力（技術・理論）を身につける				
事前に受講するとよい科目			実務基礎能力論 A				
オフィスアワー			毎週水曜日 18:10-19:40				
教員への連絡方法			zen.komiya@toko.hosho.ac.jp、Google Chat、Google Classroom				
講義の目的	鉄道に関する学習を進める際に必要となる算数・数学を修得する。1 年必修科目である実務基礎能力論では、就職適性検査（SPI 試験）の対策を行う。それに加えて、本講義では、専門科目の交通分野を修得するために必要となる数学を学ぶ。						
到達目標	2 年次の鉄道系の専門科目を学習する際、教科書や試験に出てくる式を具体的に計算できるようになること。						
講義内容	大きく分けて 3 つの分野の数学を学習する。1：鉄道会社への入社試験に必要な数学、2：鉄道・交通分野の経済学に関する数学、3：鉄道の土木・電気・車両・運転に関する数学。特に微分積分は重点的に学習する。						
講義スケジュール		タイトル			内容		
	第 1 講	数学の表記や定義（1）			ギリシャ文字、角度、度・分・秒、ラジアン		
	第 2 講	数学の表記や定義（2）			単位の変換、ルート、べき乗		
	第 3 講	基礎数学（1）			割合とパーセント、速さ・時間・距離、オームの法則		
	第 4 講	基礎数学（2）			三角関数		
	第 5 講	基礎数学（3）			関数（一次関数・二次関数）、連立方程式		
	第 6 講	基礎数学（4）			微分		
	第 7 講	基礎数学（5）			積分、偏微分		
	第 8 講	基本的な計算（1）			損益分岐点の計算		
	第 9 講	基本的な計算（2）			確率・表面積・体積の計算		
	第10講	中間試験			第 1 講から第 9 講までの総復習を兼ねた中間試験		
	第11講	経済学に必要な数学（1）			需要と供給のグラフ		
	第12講	経済学に必要な数学（2）			価格弾力性		
	第13講	経済学に必要な数学（3）			余剰分析		
	第14講	鉄道に必要な数学（1）			曲率、スラック・カント		
第15講	鉄道に必要な数学（2）			Nadal の式と脱線係数			
指導方法		授業の前半（40 分程度）は解説等をし、後半は問題演習をする。授業内で終了しなかった分に関しては、次回までの提出課題となる。					
事前学習		授業前の事前学習として、各回のテキスト該当ページを一読し、未習の用語等について明らかにし、課題をもって授業に臨むことが必要である。1 時間 30 分程度の学習時間が目安である。					
事後学習		授業後の事後学習として、授業時に学習した以外の事例について参考文献を調べ、自分で考察をまとめることにより、授業で学んだ知識が定着し、理解を深めることができる。1 時間 30 分程度の学習時間が目安である。					
成績評価方法		本試験：40%、平常点：60%[課題（授業内外で作成した提出物）]を総合的に判断して評価する。課題は複数出すが、一つでも未提出の場合は、成績評価の対象としない。					
課題（試験・レポート）に対するフィードバックの方法			授業の最初に、前回の課題の解説を実施する。				
テキスト		特になし。必要に応じて資料・レジュメを配布する。					
参考文献		必要に応じて資料・レジュメを配布する。					
実務家教員による授業		×	教 員 経 歴				
特記事項							

ナンバリング		科目名		サブタイトル	担当教員	配当年学期	単位数
122BT30		鉄道安全論		鉄道メンテナンス業と安全の関係	町山 友和ほか	1 年次後期	2
科目区分	専 門	キーワード		鉄道軌道、鉄道電気、鉄道車両、設計、施工、メンテナンス			
ディプロマポリシーとの対応			1. 時代や社会の要請に対応できる能力				
カリキュラムポリシーとの対応			1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける 2. 交通産業および関連分野で活躍するための基礎能力（技術・理論）を身につける				
事前に受講するとよい科目			交通概論 A				
オフィスアワー			授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。				
教員への連絡方法			教員の短大メールアドレス				
講義の目的	鉄道が安全且つ安定に運行するためには、軌道や電気、車両といった各インフラ部門が適切に維持管理する必要があります。適切な維持管理では、計画的な検査やその結果に伴う施工が必要です。この講義の目的は鉄道の安全安定輸送のためにインフラ部門のメンテナンスや施工方法を体系的に理解することを目的とします。						
到達目標	将来、鉄道事業に携わるためには、各インフラ部門の構造や安全かつ確実な施工方法を具体的に理解しておくことは重要です。これらを学生の間に、予め把握しておくことで、鉄道業界で即戦力として活躍することを講義の目標とします。						
講義内容	本講義では、鉄道事業に関わる実務家として、各インフラ部門の構造やメンテナンス、施工方法、安全面や品質面での施工について法令を含めて網羅的に学びます。また具体的な施工現場を実踏することで、より理解を深めていきます。						
講義スケジュール		タイトル			内容		
	第1 講	メンテナンス全般			鉄道システム、法令等		
	第2 講	軌道その1			構造		
	第3 講	軌道その2			構造、メンテナンス		
	第4 講	軌道その3			施工（施工方法、安全・品質管理）		
	第5 講	軌道その4			事故防止、軌道まとめ		
	第6 講	電気その1			電気（信号保安設備）構造・メンテナンス・施工		
	第7 講	電気その2			電気（電路設備）構造・メンテナンス・施工		
	第8 講	電気その3			電気（変電・電力設備）構造・メンテナンス・施工		
	第9 講	電気その4			電気まとめ		
	第10講	車両その1			鉄道一般・車両管理（総論）		
	第11講	車両その2			車両管理（メンテナンス）・構造①		
	第12講	車両その3			車両管理（工事）・構造②		
	第13講	車両その4			車両管理（デザイン・設計）・安全衛生・まとめ		
	第14講	鉄道構造物設計その1			事業概要、土木構造物の種類と維持管理		
第15講	鉄道構造物設計その2			土木構造物の種類と維持管理、停車場、設計まとめ			
指導方法	テキストや動画等を参考に、授業します。本講義は複数の教員によるオムニバス形式です。						
事前学習	授業前の事前学習として、参考書等を一読し、未習の用語等について明らかにし、課題をもって授業に臨むことが必要である。1 時間程度の学習時間が目安です。						
事後学習	授業後の事後学習として、授業時に学習した以外の事例について参考文献を調べ、自分で考察をまとめることにより、授業で学んだ知識が定着し、理解を深めることができる。1 時間 30 分程度の学習時間が目安である。						
成績評価方法	本試験（レポート）5 0 %、平常点（授業内課題等）5 0 %						
課題（試験・レポート）に対するフィードバックの方法		必要に応じて、各自へフィードバックを行う					
テキスト	『わかりやすい鉄道技術』『鉄道概論・土木編』、「鉄道概論・電気編」、「鉄道概論・車両編・運転編」いずれも鉄道総合技術研究所、改訂版						
参考文献							
実務家教員による授業	○	教 員 経 歴	鉄道会社等に勤務・出向経験有り				
特記事項	鉄道メンテナンスの現場見学会を行う場合があります。ただし参加を義務とすることはありません。						

ナンバリング		科目名		サブタイトル	担当教員	配当年学期	単位数
122BT31		交通心理学		不確かな人間の感覚・知覚・記憶	佐古 仁志	1 年次後期	2
科目区分	専 門	キーワード		交通事故、ヒューマンエラー、知覚、認知			
ディプロマポリシーとの対応			2. 交通産業および関連分野での基礎能力（技術・理論）を有し、関連分野で活躍可能な能力				
カリキュラムポリシーとの対応			1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける 2. 交通産業および関連分野で活躍するための基礎能力（技術・理論）を身につける				
事前に受講するとよい科目			心理学				
オフィスアワー			授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。				
教員への連絡方法			教員の短大メールアドレス				
講義の目的	交通心理学の成り立ちを学びながら交通事故の原因と対策をすることで、交通事故減少のための手段を身につける。またヒューマンエラーについて基礎的知見を知ることで、私たちの感覚・知覚・意思決定・記憶などが自分が考えている以上に不確実なことを理解し、交通分野を含む社会生活で活用するための基礎知識を養う。						
到達目標	講義を通じて、交通事故についての理解を深めるとともに、ヒューマンエラーに関する基本的な知識を身につけ、日常生活に活かすことができるようになることが目標である。単に知識を学ぶのではなく、毎回のリアクションペーパーの作成を通じて、授業内容が日常生活でどのように働いているのかを実感することで、さまざまな場面へと応用が可能となる。						
講義内容	まず、交通心理学の歴史と原因、対策について確認する。それから、交通事故の主要な原因であるヒューマンエラーについて、知覚、感覚、身体、意思決定、バイアス、記憶の観点から考察し、最後に、それまでの講義を踏まえて、交通事故における環境とモラルについて検討する。						
講義スケジュール		タイトル			内容		
	第1 講	ガイダンス			ガイダンス・交通心理学の歴史		
	第2 講	交通事故と対策 1			交通事故の原因と対策について		
	第3 講	交通事故と対策 2			心理特性について		
	第4 講	交通事故と対策 3			リスク知覚と行動について		
	第5 講	まとめ 1			交通事故と対策のまとめ		
	第6 講	ヒューマンエラー1			知覚の誤りについて		
	第7 講	ヒューマンエラー2			感覚の不確かさについて		
	第8 講	ヒューマンエラー3			身体や感情の影響について		
	第9 講	ヒューマンエラー4			合理的判断と意思決定について		
	第10講	ヒューマンエラー5			思い込みとバイアスについて		
	第11講	ヒューマンエラー6			記憶の不確かさについて		
	第12講	まとめ 2			ヒューマンエラーのまとめ		
	第13講	交通事故と社会 1			システムと環境・構造について		
	第14講	交通事故と社会 2			交通モラルについて		
	第15講	まとめ 3			全体のまとめ		
指導方法		講義形式。ただし、授業冒頭に前回まとめとリアクションペーパーへ応答を行い、授業の最後にリアクションペーパーの作成と質問の時間を設ける。					
事前学習		授業前の事前学習として、各回のテーマについて予習し、課題をもって授業に臨むこと。1 時間 30 分程度の学習時間が目安である。					
事後学習		授業後の事後学習として、参考文献を調べ、自分で考察をリアクションペーパーとして提出すること。そうすることで、授業で学んだ知識が定着し、理解を深めることができる。1 時間 30 分程度の学習時間が目安である。					
成績評価方法		平常点 40%（出席＋リアクションペーパーの提出） 期末試験 60%					
課題(試験・レポート)に対するフィードバックの方法			各回の授業冒頭および google クラスルーム				
テキスト		なし。適宜資料を配布する。					
参考文献		蓮花一己ほか著『交通心理学（改訂版）』（放送大学教材、2017 年）,D.A.ノーマン『誰のための心理学 増補・改訂版』（新曜社、2015 年）,太田信夫監修『交通心理学』（北大路書房、2017 年）,一川誠著『ヒューマンエラーの心理学』（ちくま新書、2019 年）,一川誠著『交通心理学入門』（企業開発センター 交通問題研究室、2017 年）ほか					
実務家教員による授業			教 員 経 歴				
特記事項		特になし					

ナンバリング		科目名		サブタイトル	担当教員	配当年学期	単位数
222BT27		交通中国語		交通に関する中国語コミュニケーションの 実践	李 婧	2 年次後期	2
科目区分	専 門	キーワード		中国交通論、中国文化事情、国際観光、観光中国語、ビジネス中国語			
ディプロマポリシーとの対応			2. 交通産業および関連分野での基礎能力（技術・理論）を有し、関連分野で活躍可能な能力				
カリキュラムポリシーとの対応			1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける 2. 交通産業および関連分野で活躍するための基礎能力（技術・理論）を身につける				
事前に受講するとい科目			中国語 A、中国語 B				
オフィスアワー			授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。				
教員への連絡方法			教員の短大メールアドレス				
講義の目的	本講義は、交通に関連する中国語の基本知識とそれにまつわる重要な単語を学び、観光やビジネスで使う場面を想定した、専門的な中国語を習得することを目的とします。特に、中国語圏（中国・台湾・香港、マカオなど）からの観光客が鉄道・バス・飛行機など交通機関を利用する際、コミュニケーションがとれるような実践的な会話能力の習得を目指します。						
到達目標	① 初級から準中級の基本的な文法を身につけます。 ② 基本的な中国の観光やビジネスに関する用語を覚えます。 ③ 実際に交通機関を利用する場面を想定した会話ができる能力を得ます。 ④ 中国語圏の交通機関に関する認識や文化事情を知り、中国語のコミュニケーションをとる際に役に立てるようになります。						
講義内容	中国語の語学能力習得だけでなく、異文化相互理解という視点から日本と中国の交通機関に対する認識の違いや文化的な差異についても紹介します。中国語圏の交通や習慣・文化事情を紹介する画像や映像資料も教材として用い、日本で知られていない側面にも焦点を当てます。学期の中盤からは観光客やビジネス客との応対を想定した実践的な会話練習を行います。						
講義スケジュール		タイトル			内容		
	第 1 講	ガイダンス			講義の説明、自己紹介の仕方		
	第 2 講	中国の交通事情（1）			中国交通形成史と現状		
	第 3 講	中国の交通事情（2）			中国交通の習慣と文化		
	第 4 講	発音の練習			声調やピンインの確認と反復練習		
	第 5 講	電話をかける			電話をかけるときによく使う表現、「请」の使い方		
	第 6 講	日程調整			日程調整をするときによく使う表現、「正」「正在」＋動詞の使い方		
	第 7 講	飛行機で			物を頼むときによく使う表現、「是」「还是」、「把①」、「快要～了」		
	第 8 講	まとめ			重要文法事項の復習		
	第 9 講	入国の手続き			理由を尋ねるときによく使う表現、「把②」、「过」、「准备」		
	第10講	空港のインフォメーションで			道を尋ねるときによく使う表現、「应该」「又～又～」		
	第11講	ホテルでチェックイン			宿泊をするときによく使う表現、「是～的」、「可以」、「能」		
	第12講	デパートで買い物する			接客するときによく使う表現、可能な表現①		
	第13講	観光案内所で			提案するときによく使う表現、可能な表現②		
	第14講	空港で登場の手続きをする			空港で搭乗手続きをするときによく使う表現、方向補語、「着」		
	第15講	総まとめ			重要文法事項の復習		
指導方法		講義は教科書を主に用いて進めています。学期の中盤以降は、実践的な会話練習を中心に進めます。また中国本土で使われている簡体字のみならず、台湾・香港などで使われている繁体字の資料も適宜取り入れます。					
事前学習		授業前の事前学習として、各回のテキスト該当ページを一読し、未習の用語等について明らかにし、課題をもって授業に臨むことが必要である。1 時間 30 分程度の学習時間が目安である。					
事後学習		授業後の事後学習として、授業時に学習した以外の事例について参考文献を調べ、自分で考察をまとめることにより、授業で学んだ知識が定着し、理解を深めることができる。1 時間 30 分程度の学習時間が目安である。					
成績評価方法		本試験（筆記試験）50%、平常点（小テスト・授業内課題・発言）50%として総合的に評価します					
課題（試験・レポート）に対する フィードバックの方法			授業内で解説する。				
テキスト		『チャイニーズ・サバイバル for Biz』（2023）姫梅著、朝日出版社（ISBN:978-4-255-45378-1）					
参考文献		授業内で紹介します。					
実務家教員による授業			教 員 経 歴				
特記事項		受講生の状況や希望によって授業進度などを調整する場合があります。					

ナンバリング		科目名		サブタイトル	担当教員	配当年学期	単位数
222BT28		交通文化論		交通を「文化」という視点で考える	濱 雄亮	2 年次後期	2
科目区分	専 門	キーワード		文化論・文化史・比較文化			
ディプロマポリシーとの対応			2. 交通産業および関連分野での基礎能力（技術・理論）を有し、関連分野で活躍可能な能力				
カリキュラムポリシーとの対応			1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける 2. 交通産業および関連分野で活躍するための基礎能力（技術・理論）を身につける				
事前に受講するとよい科目			交通概論、鉄道基礎、鉄道史、交通政策論				
オフィスアワー			授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。				
教員への連絡方法			教員の短大メールアドレス				
講義の目的	鉄道が日本に導入されてから 150 年以上が経過しました。その他にも様々な交通機関が発展してきました。交通は単に移動・輸送サービスを提供する作用だけを持っているわけではありません。交通は、人びとのライフスタイル・「文化」や他領域と、お互いに影響を与え合っています。その諸相について、文化人類学・民俗学・社会学を中心とした人文科学の知見に基づいて学ぶことを目的とします。						
到達目標	鉄道を中心にした交通と「文化」や他領域がお互いに影響を与え合っているさまについて、具体例を挙げて説明ができること。前近代・近代・現代の連続性について、具体例を挙げて説明ができること。						
講義内容	交通（鉄道の比重が大きい）と「文化」の影響関係について、具体例に基づいて講義を行います。極力、具体例に基づいて講義を行います。予備知識はとくに必要ありません。						
講義スケジュール		タイトル			内容		
	第 1 講	「文化論」とは？			「文化論」という視点について		
	第 2 講	交通文化研究のあり方			交通文化研究の現状		
	第 3 講	交通の受容と地域(1)			鉄道忌避伝説の発生と背景		
	第 4 講	交通の受容と地域(2)			都心と多摩地区の鉄道		
	第 5 講	交通の受容と地域(3)			植民地と鉄道		
	第 6 講	交通・鉄道と人(1)			鉄道ファン・鉄道趣味の文化史		
	第 7 講	交通・鉄道と人(2)			交通と神々・交通と擬人化の諸相と背景		
	第 8 講	交通・鉄道と人(3)			鉄道と自然災害・獣害の歴史		
	第 9 講	鉄道と文芸(1)			教科書・文学・共通テストにおける描かれ方		
	第10講	鉄道と文芸(2)			歌・落語・アニメ・マンガにおける描かれ方		
	第11講	鉄道と文芸(3)			落語・文学における描かれ方・ドクターイエローの神格化		
	第12講	交通・鉄道と災害(1)			鉄道の正確性・鉄道事故の諸相と背景		
	第13講	交通・鉄道と災害(2)			鉄道と災害：東日本大震災・人災など		
	第14講	交通の現代的展開と課題(1)			寝台特急の歴史・地方鉄道の取り組み		
	第15講	交通の現代的展開と課題(2)			少子高齢化社会の課題と交通・総括		
指導方法		講義形式です。動画・写真・映画も用います。「* *と聞いて思いつくこと」などをその場で聞きその答えを即興で講義に生かすこともあります。毎回、感想・意見記入などの授業内課題を課します。					
事前学習		授業前の事前学習として、各回のテキスト該当ページを一読し、未習の用語等について明らかにし、課題をもって授業に臨むことが必要である。1 時間 30 分程度の学習時間が目安である。					
事後学習		授業後の事後学習として、授業時に学習した以外の事例について参考文献を調べ、自分で考察をまとめることにより、授業で学んだ知識が定着し、理解を深めることができる。1 時間 30 分程度の学習時間が目安である。					
成績評価方法		平常点（授業内課題）：60%、本試験（筆記試験）：40%。					
課題(試験・レポート)に対するフィードバックの方法			授業内課題は原則として次の授業時に解説・補足説明を行います。				
テキスト		用いません。紙や pdf の資料を教室や classroom 上で配付します。					
参考文献		草柳大蔵〔ほか監修〕 1991『20 世紀フォトドキュメント 第 7 巻 交通』ぎょうせい、宇田正 2007『鉄道日本文化史考』思文閣出版など。					
実務家教員による授業			教 員 経 歴				
特記事項		新しく入手した資料や社会情勢によって順番や内容を一部変更する場合があります。					

ナンバリング		科目名		サブタイトル	担当教員	配当年学期	単位数
212BT29		鉄道技術史		高速大量輸送と安全のための技術開発	宗像 俊輔	2 年次前期	2
科目区分	専 門	キーワード		鉄道、高速大量輸送、安全対策、技術と人間			
ディプロマポリシーとの対応			2. 交通産業および関連分野での基礎能力（技術・理論）を有し、関連分野で活躍可能な能力				
カリキュラムポリシーとの対応			1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける 2. 交通産業および関連分野で活躍するための基礎能力（技術・理論）を身につける				
事前に受講するとよい科目			交通概論、鉄道基礎、鉄道工学、鉄道数学、交通英語入門、鉄道システム論、交通史				
オフィスアワー			月曜日・火曜日・土曜日（要確認）				
教員への連絡方法			s.munakata@toko.hosho.ac.jp				
講義の目的	鉄道が発明されて 200 年近くが経とうとしているが、旅客や貨物の高速大量輸送を実現する一方で、事故の頻発によって安全対策が急務とされてきた。高速大量輸送と安全対策の技術はどのようにして誕生したのかを、社会的背景と鉄道技術者たちの創意工夫の歴史を学ぶ。鉄道技術の起源を扱うこの講義では、主にイギリスとアメリカに焦点を当てる。						
到達目標	①蒸気機関の発明以降の、鉄道車両開発の歴史を理解する。②高速大量輸送を実現するのに、その時々でいかなる社会的要請があったかを理解する。③鉄道の安全運行に関わる各種技術の基礎（種類、仕組み）を理解する。④技術開発やその普及が、鉄道労働者の労働や、人びとの生活にいかなる変化をもたらしたかを理解する。						
講義内容	前半では、蒸気機関の発明から蒸気機関車の誕生まで、高速大量輸送機関としての鉄道の基礎作りを解説する。後半は、鉄道の安全性を確保するための工夫を、当時の鉄道史料から考えていく。						
講義スケジュール		タイトル			内容		
	第 1 講	ガイダンス			本講義の概要、イギリスとアメリカに焦点を当てる理由		
	第 2 講	蒸気機関の誕生			動力源たる蒸気機関が実用化するまでの技術的展開		
	第 3 講	蒸気機関車の発明			蒸気機関の小型化が可能にした、交通機関への転用		
	第 4 講	「陸上交通の覇者」の基礎作り			アメリカの地理的条件が拓いた鉄道の可能性		
	第 5 講	「大陸横断鉄道」と技術			長大路線を開発するために利用された技術		
	第 6 講	戦争と鉄道			近代の「総力戦」を可能にした鉄道技術		
	第 7 講	内燃機関の導入と車両の進化			石油の発見とディーゼルエンジンの開発がもたらした動力の近代化		
	第 8 講	電化による輸送効率の向上			電化によって実現した高速化		
	第 9 講	中間試験			前半の講義のおさらい		
	第10講	鉄道をつくった人々、動かした人々			鉄道労働者の日常の労働と彼らを取り巻く危険		
	第11講	鉄道の安全への軌跡①			鉄道が「標準時」を欲した理由		
	第12講	鉄道の安全への軌跡②			現代の「信号」技術の基盤がつくられるまで		
	第13講	鉄道の安全への軌跡③			今日の「自動連結器」がつくられるまでの苦闘		
	第14講	鉄道の安全への軌跡④			「ブレーキ」機構の開発と世界的な普及		
	第15講	鉄道技術開発の最前線			積み上げられた技術的基盤をどう進化させようとしているのか		
指導方法		パワーポイントを用いて解説する。グループワークの時間もあるので、積極的な議論への参加を期待する。毎回のリアクションペーパーに、気づいたことや質問などがあれば記入する。					
事前学習		授業前の事前学習として、各回のタイトルをヒントにウェブページや書籍を読んでその概要を把握するとよい。各回、課題をもって授業に臨むことが必要である。1 時間 30 分程度の学習時間が目安である。					
事後学習		授業後の事後学習として、授業時に学習した以外の事例について参考文献を調べ、自分で考察をまとめることにより、授業で学んだ知識が定着し、理解を深めることができる。1 時間 30 分程度の学習時間が目安である。					
成績評価方法		本試験（40%）、中間試験（40%）、毎回のリアクションペーパー（20%）。					
課題（試験・レポート）に対するフィードバックの方法		毎回の講義の冒頭でリアクションペーパーに対する返答をし、試験時には解答とその解説をする。					
テキスト		教科書は指定しません。必要な資料については各回で随時配布する。					
参考文献		鉄道の百科事典編集委員会（編）『鉄道の百科事典』丸善出版, 2012。					
実務家教員による授業			教 員 経 歴				
特記事項		特になし					